

## 11. みどりのまちづくり

みどりは、私たちにうるおいや安らぎを与えてくれるとともに、環境の改善や防災性の向上、景観性の向上、子どもたちの歓声の醸成等、さまざまな役割があります。

「目黒区みどりの基本計画」では、みどりの保全・創出・育成には、区民、団体、事業者等のあらゆる主体が、自主的にみどりに関する活動に取り組むことが重要であり、そのためには、多くの人々がみどりの価値に気づき、暮らしの中に取り入れたいと感じることのできる、質の高いみどりを増やしていくことが必要であるとしています。

### 11-1 みどりのまちづくりのために協力できること、やってみたいこと

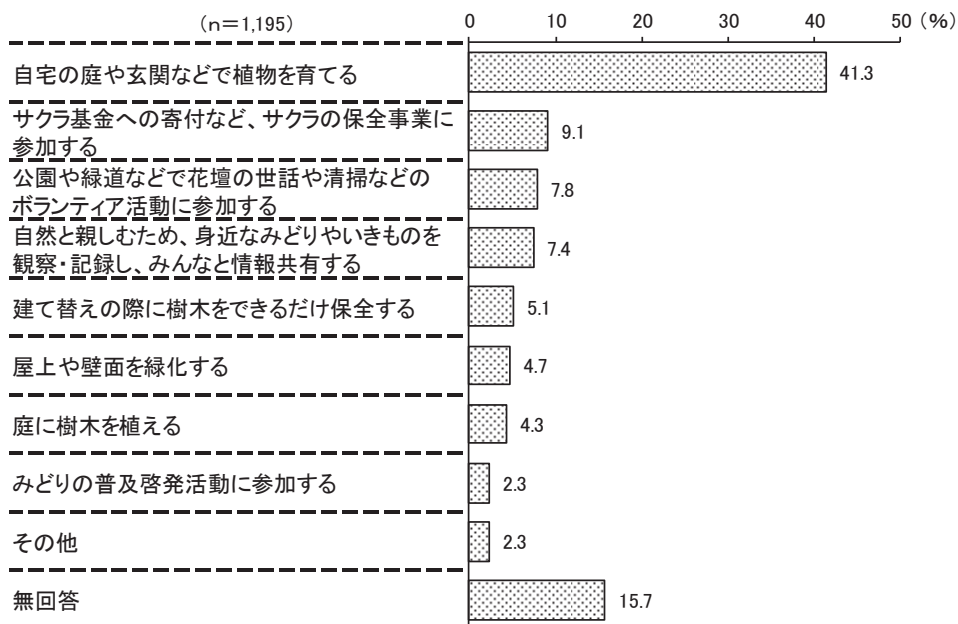
問33 魅力あるみどりのまちづくりのために、あなたが協力できること、やってみたいことは何ですか。（〇は1つ）

- ・「自宅の庭や玄関などで植物を育てる」が4割を超えて最も高く、次いで「サクラ基金への寄付など、サクラの保全事業に参加する」、「公園や緑道などで花壇の世話や清掃などのボランティア活動に参加する」の順となっている。
- ・「自宅の庭や玄関などで植物を育てる」は女性の10・20代、中央地区で高くなっている。
- ・「サクラ基金への寄付など、サクラの保全事業に参加する」は男性の30代と40代、女性の50代、東部地区で高くなっている。
- ・「公園や緑道などで花壇の世話や清掃などのボランティア活動に参加する」は男性の40代と50代、女性の40代、北部地区で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「自宅の庭や玄関などで植物を育てる」が41.3%で最も高く、次いで「サクラ基金への寄付など、サクラの保全事業に参加する」9.1%、「公園や緑道などで花壇の世話や清掃などのボランティア活動に参加する」7.8%の順となっている。

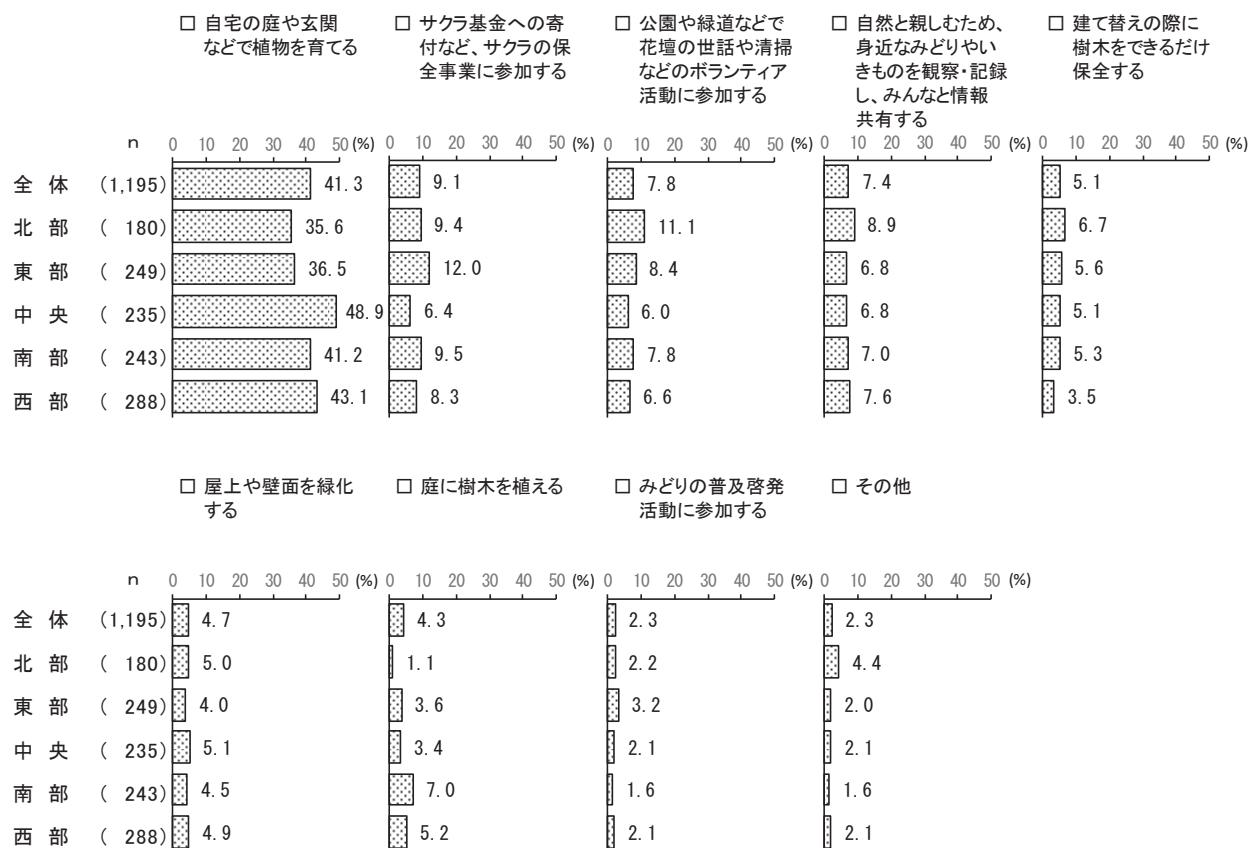
図 11-1-1 みどりのまちづくりのために協力できること、やってみたいこと（全体）



## (2) 地区別

- ・「自宅の庭や玄関などで植物を育てる」は中央地区（48.9%）で高くなっている。
- ・「サクラ基金への寄付など、サクラの保全事業に参加する」は東部地区（12.0%）で高くなっている。
- ・「公園や緑道などで花壇の世話や清掃などのボランティア活動に参加する」は北部地区（11.1%）で高くなっている。

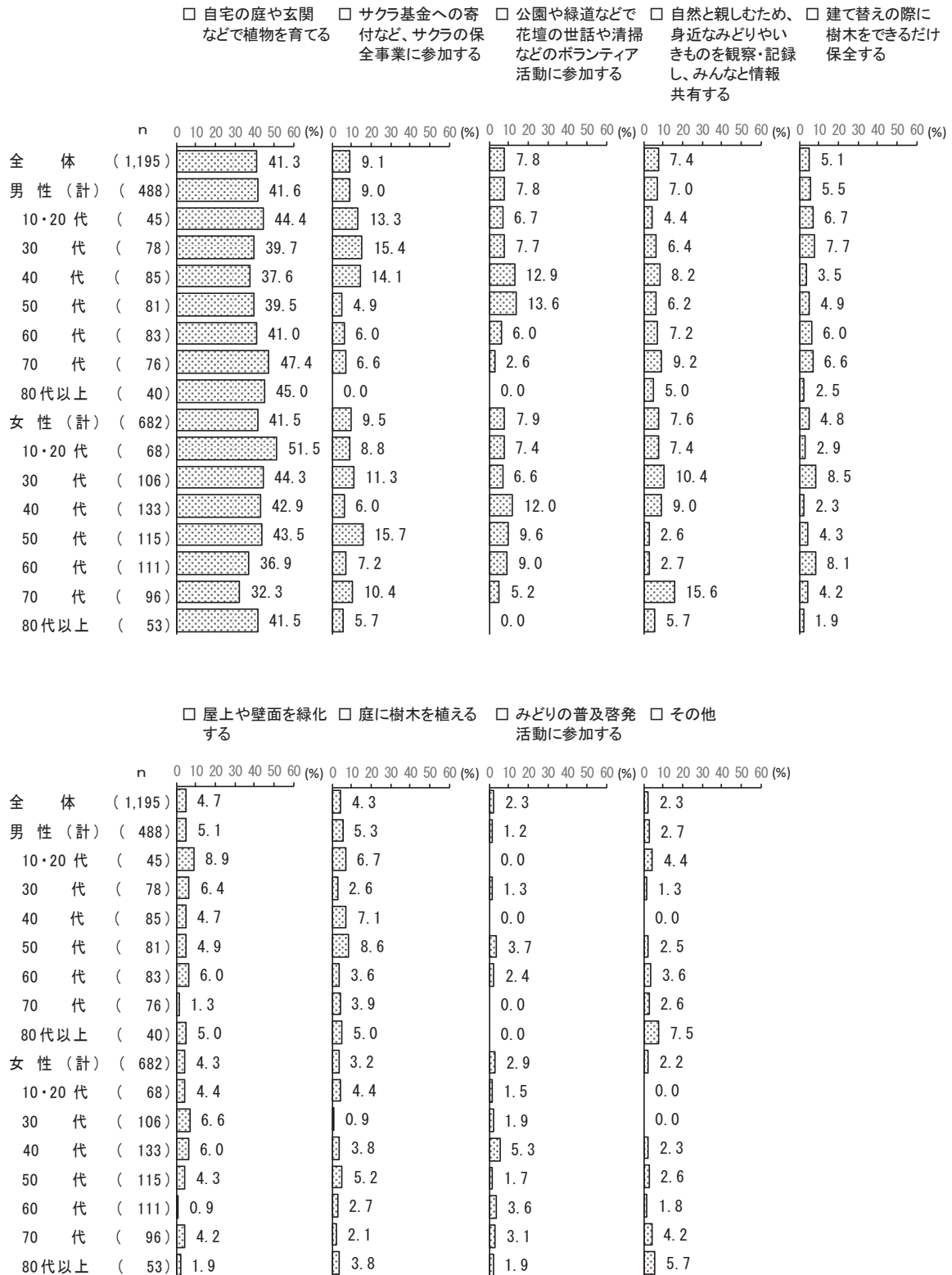
図 11-1-2 みどりのまちづくりのために協力できること、やってみたいこと（地区別）



(3) 性・年代別

- ・「自宅の庭や玄関などで植物を育てる」は女性の10・20代(51.5%)で高くなっている。
- ・「サクラ基金への寄付など、サクラの保全事業に参加する」は男性の30代(15.4%)と40代(14.1%)、女性の50代(15.7%)で高くなっている。
- ・「公園や緑道などで花壇の世話や清掃などのボランティア活動に参加する」は男性の50代(13.6%)と40代(12.9%)、女性の40代(12.0%)で高くなっている。

図11-1-3 みどりのまちづくりのために協力できること、やってみたいこと(性・年代別)



## 11-2 公園の魅力向上のために必要だと思うこと

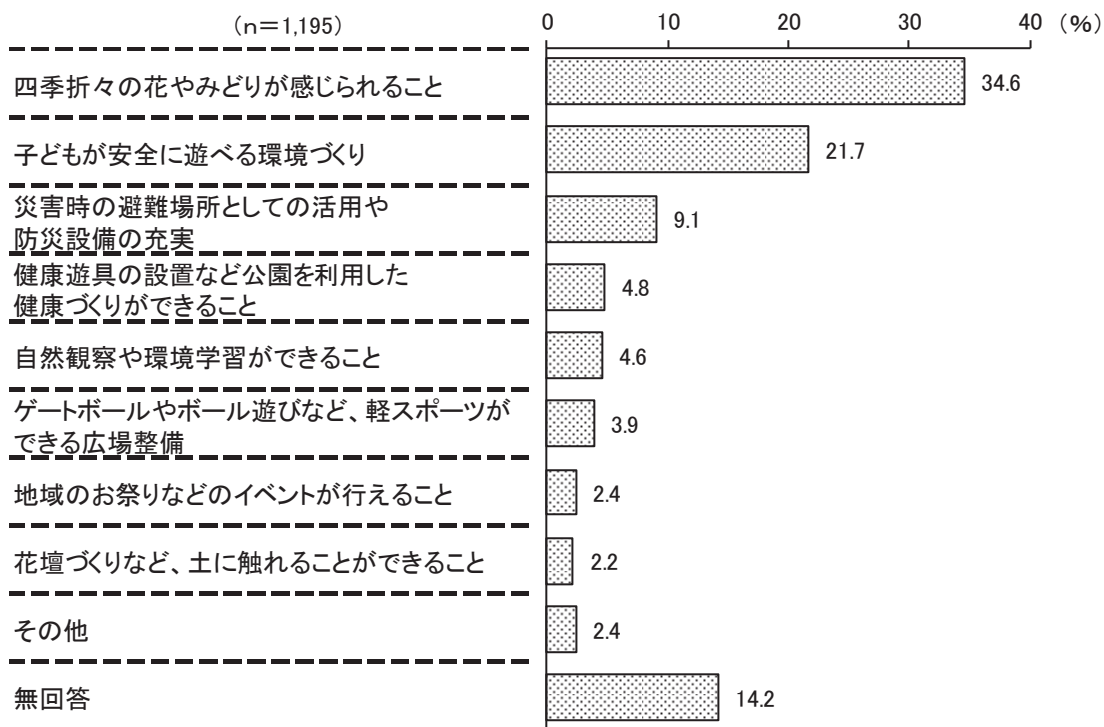
問34 公園の魅力向上させるために、あなたが必要だと思うことは何ですか。（○は1つ）

- ・「四季折々の花やみどりを感じられること」が3割半ばで最も高くなっている。次いで「子どもが安全に遊べる環境づくり」、「災害時の避難場所としての活用や防災設備の充実」、「健康遊具の設置など公園を利用した健康づくりができること」、「自然観察や環境学習ができること」の順となっている。
- ・「四季折々の花やみどりを感じられること」は女性の50代と80代以上、西部地区で高く、「子どもが安全に遊べる環境づくり」は男性の40代、中央地区と南部地区で高くなっている。

### (1) 全体

- ・「四季折々の花やみどりを感じられること」が34.6%で最も高くなっている。次いで「子どもが安全に遊べる環境づくり」21.7%、「災害時の避難場所としての活用や防災設備の充実」9.1%、「健康遊具の設置など公園を利用した健康づくりができること」4.8%、「自然観察や環境学習ができること」4.6%の順となっている。

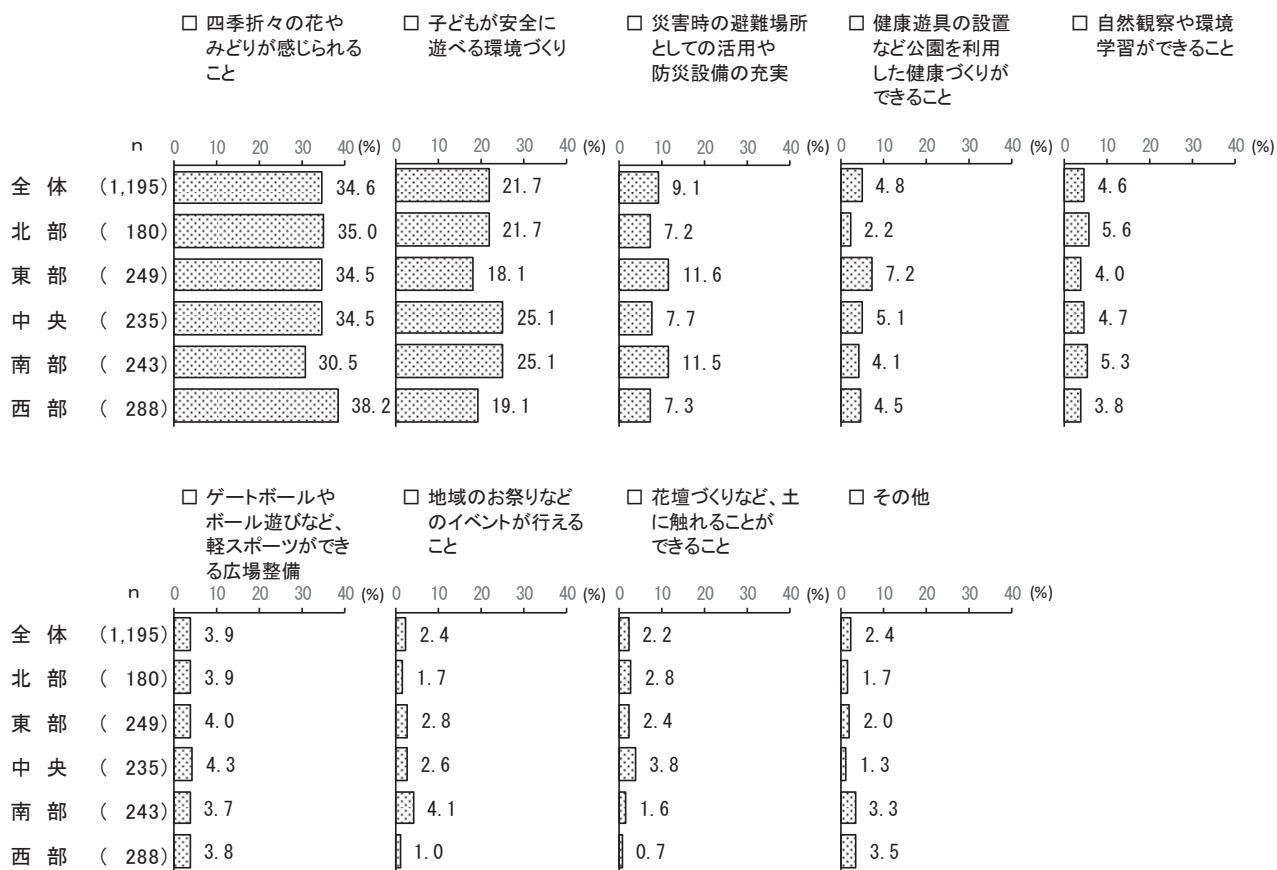
図 11-2-1 公園の魅力向上のために必要だと思うこと（全体）



(2) 地区別

- ・「四季折々の花やみどりが感じられること」は西部地区（38.2%）で高くなっている。
- ・「子どもが安全に遊べる環境づくり」は中央地区と南部地区（ともに25.1%）で高くなっている。
- ・「災害時の避難場所としての活用や防災設備の充実」は東部地区（11.6%）と南部地区（11.5%）で高くなっている。

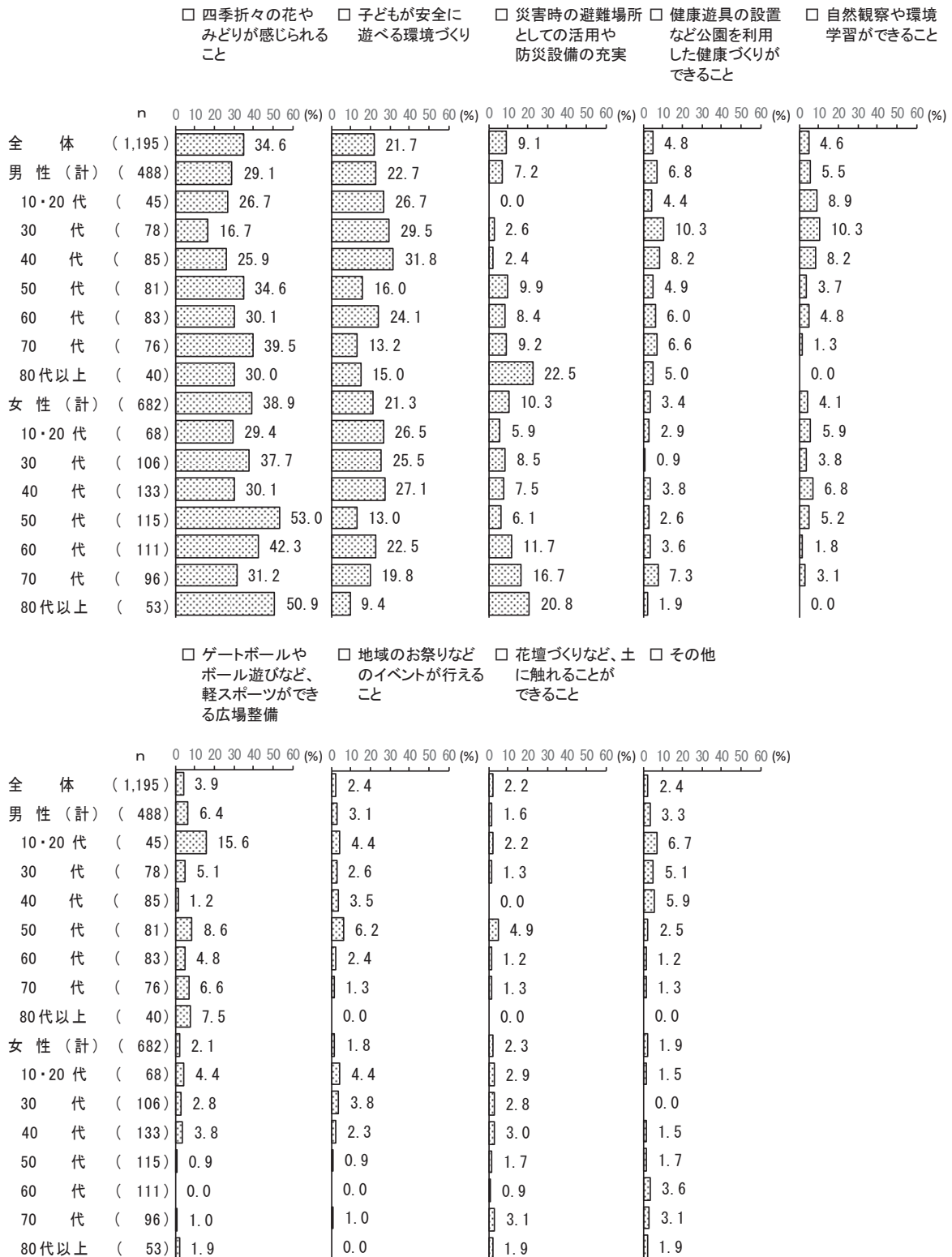
図 11-2-2 公園の魅力向上のために必要だと思うこと（地区別）



(3) 性・年代別

- ・「四季折々の花やみどりを感じられること」は女性（38.9%）が男性（29.1%）を9.8ポイント上回っており、女性の50代（53.0%）と80代以上（50.9%）で高くなっている。
- ・「子どもが安全に遊べる環境づくり」は男性、女性ともに10・20代～40代で高くなっており、男性の40代（31.8%）で最も高くなっている。

図 11-2-3 公園の魅力向上のために必要だと思うこと（性・年代別）



## 12. 生物多様性

生物多様性とは、多くの種類のいきものがいること、それらが影響しあって生態系の豊かさやバランスが保たれている（多様性がある）ことをいいます。区では平成26年3月に野鳥をシンボルとした生物多様性豊かなまちづくりの基本計画である「目黒区生物多様性地域戦略 ささえあう生命の輪 野鳥のすめるまちづくり計画」を策定しました。計画の実現には区民、家庭や団体、学校などで一人ひとりが自然と共生する暮らしを実践することが必要としており、そのために区は、連携に必要な土台づくりに取り組むとしています。

### 12-1 生物多様性の認知度

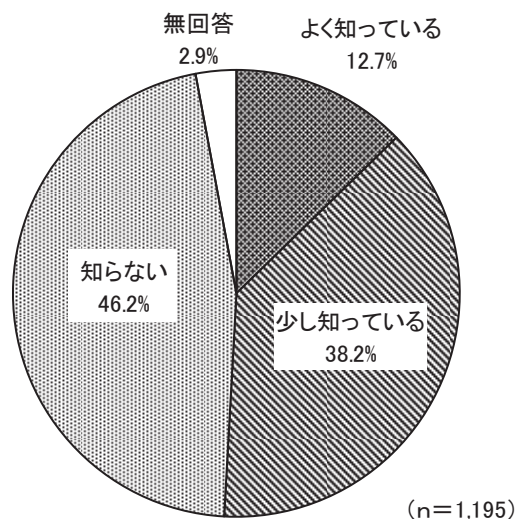
問35 「生物多様性」について知っていますか。（○は1つ）

- ・「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた『知っている』はほぼ5割となっている。一方、「知らない」は4割半ばとなっている。
- ・『知っている』は男性が女性を上回っており、男性、女性ともに低い年代ほど割合が高い傾向にある。また、男性の10・20代と40代、東部地区と中央地区で高くなっている。
- ・「知らない」は女性の40代と60代、南部地区と北部地区で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「よく知っている」12.7%と「少し知っている」38.2%を合わせた『知っている』は50.9%となっている。一方、「知らない」は46.2%となっている。

図 12-1-1 生物多様性の認知度（全体）

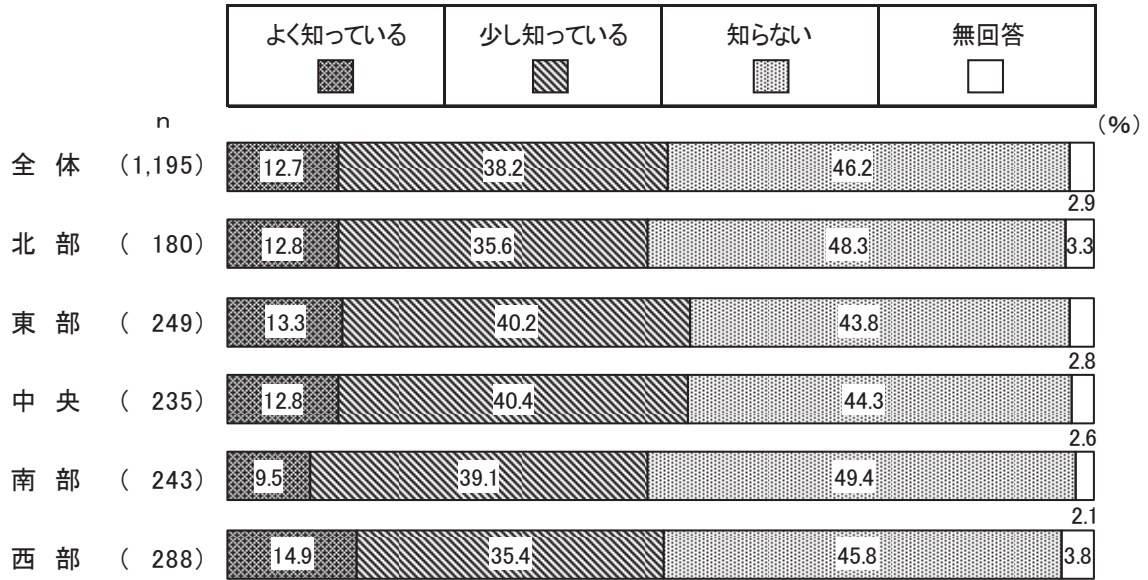




(2) 地区別

- ・『知っている』は東部地区（53.5%）と中央地区（53.2%）で高くなっている。
- ・「知らない」は南部地区（49.4%）と北部地区（48.3%）で高くなっている。

図 12-1-2 生物多様性の認知度（地区別）

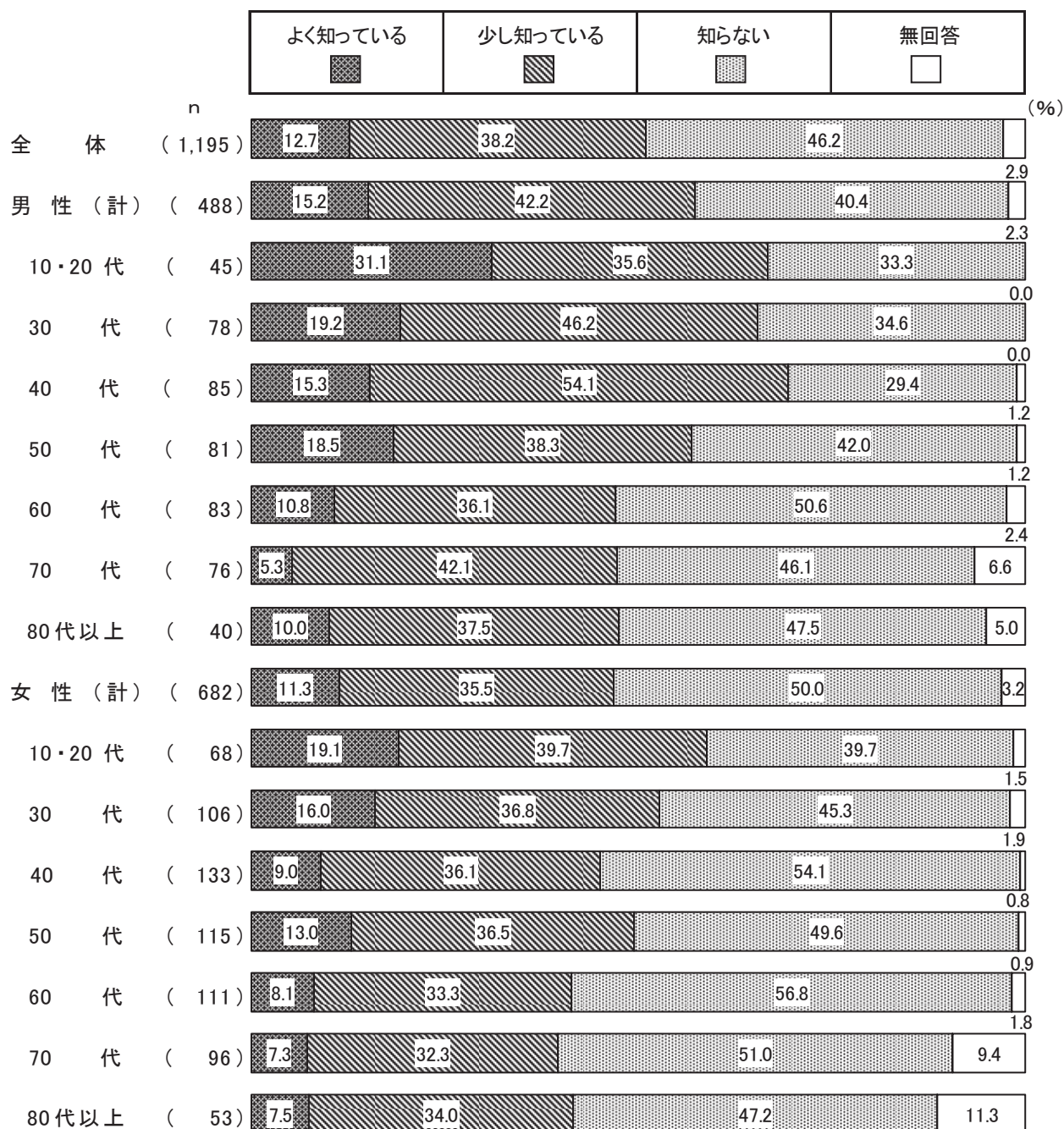




(3) 性・年代別

- ・『知っている』は男性（57.4%）が女性（46.8%）を 10.6 ポイント上回っており、男性、女性ともに低い年代ほど割合が高い傾向にある。
- ・『知っている』は男性の 40 代（69.4%）と 10・20 代（66.7%）で高くなっている。
- ・「知らない」は女性の 60 代（56.8%）と 40 代（54.1%）で高くなっている。

図 12-1-3 生物多様性の認知度（性・年代別）



## 12-2 「ささえあう生命(いのち)の輪(わ) 野鳥のすめるまちづくり計画」の認知度

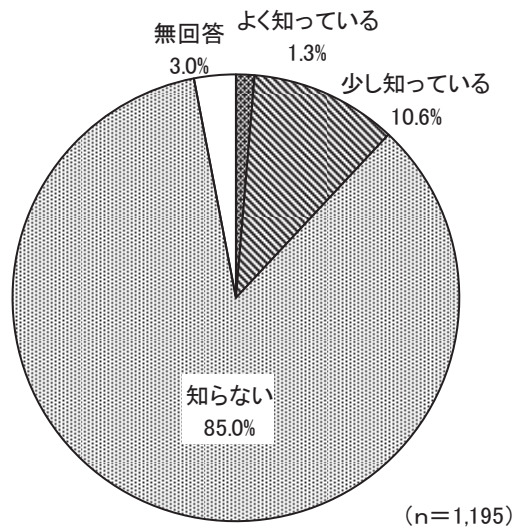
問36 区の生物多様性に関する計画「ささえあう生命(いのち)の輪(わ) 野鳥のすめるまちづくり計画」について知っていますか。(○は1つ)

- ・「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた『知っている』は1割を超えている。一方、「知らない」は8割半ばとなっている。
- ・『知っている』は男性、女性ともに高い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性の80代以上と女性の70代で高くなっている。また、中央地区で高くなっている。
- ・「知らない」は男性、女性ともに10・20代で高くなっている。また、すべての地区で8割以上を占めている。

### (1) 全体

- ・「よく知っている」1.3%と「少し知っている」10.6%を合わせた『知っている』は11.9%となっている。一方、「知らない」は85.0%となっている。

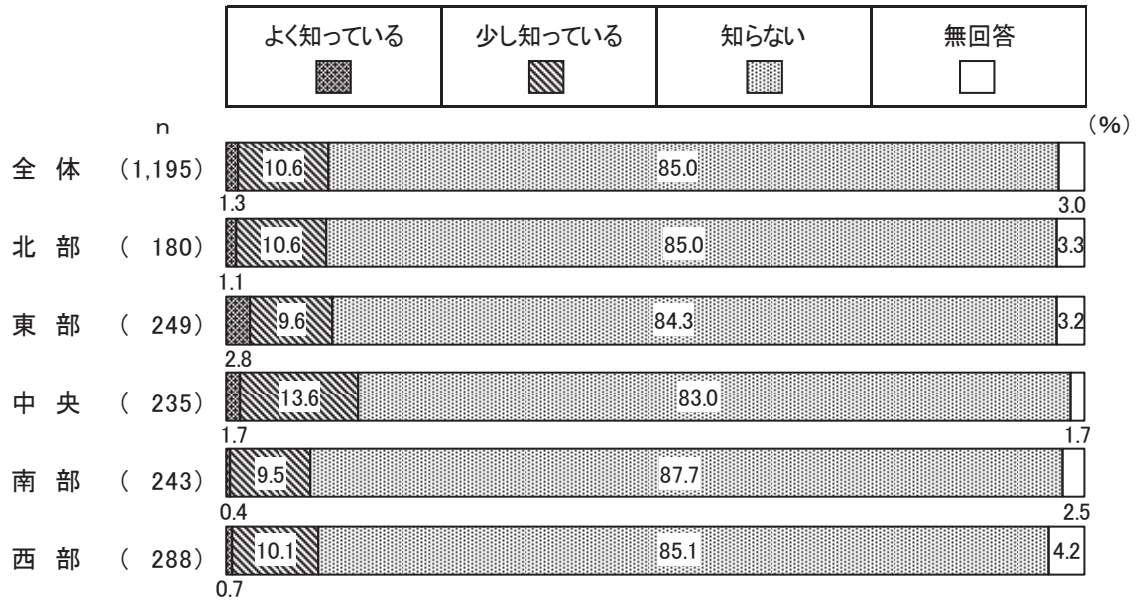
図12-2-1 「ささえあう生命(いのち)の輪(わ) 野鳥のすめるまちづくり計画」の認知度(全体)



(2) 地区別

- ・「知らない」はすべての地区で8割以上を占めている。
- ・『知っている』は中央地区（15.3%）で高くなっている。

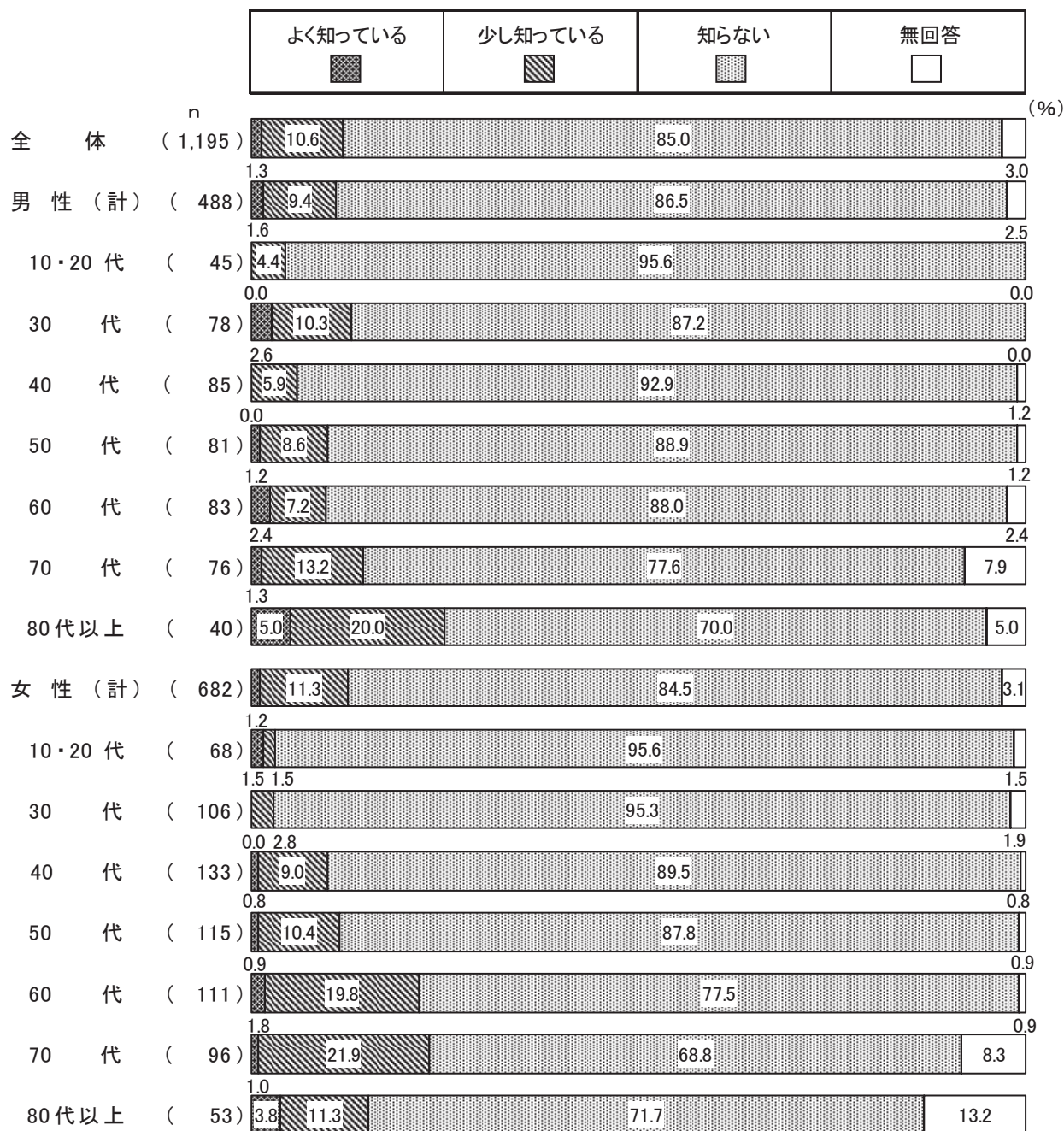
図 12-2-2 「ささえあう生命(いのち)の輪(わ) 野鳥のすめるまちづくり計画」の認知度(地区別)



(3) 性・年代別

- ・『知っている』は男性、女性ともに高い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性の80代以上(25.0%)と女性の70代(22.9%)で高くなっている。
- ・「知らない」は男性、女性ともに10・20代(ともに95.6%)で高くなっている。

図 12-2-3 「ささえあう生命(いのち)の輪(わ) 野鳥のすめるまちづくり計画」の認知度(性・年代別)



### 12-3 自然と共生する暮らしを実践するために区が取り組むべきこと

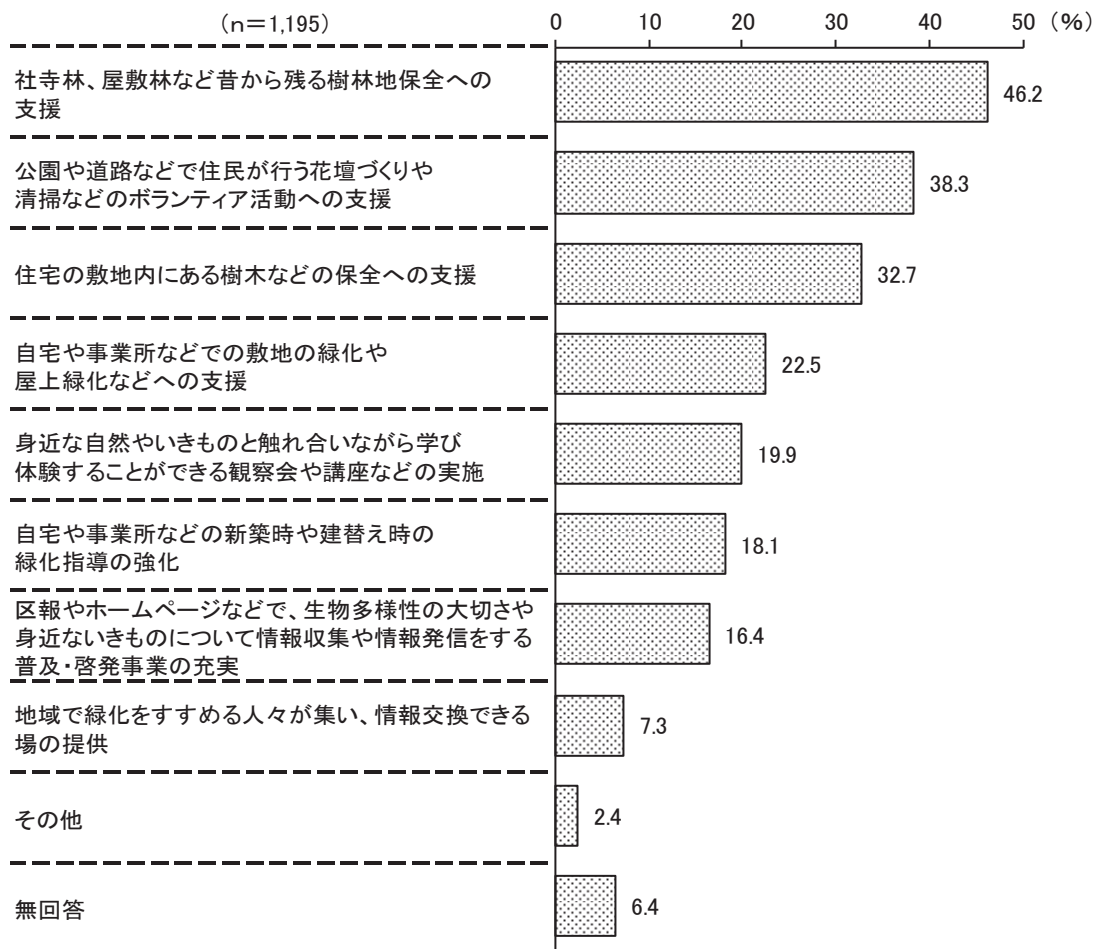
問37 私たち一人ひとりが自然と共生する暮らしを実践するために、区が特に力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。（〇は3つまで）

- ・「社寺林、屋敷林など昔から残る樹林地保全への支援」が4割半ばで最も高く、次いで「公園や道路などで住民が行う花壇づくりや清掃などのボランティア活動への支援」が4割近くとなっている。
- ・「社寺林、屋敷林など昔から残る樹林地保全への支援」は男性の10・20代と70代、女性の40代で高くなっている。また、東部地区、南部地区、北部地区で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「社寺林、屋敷林など昔から残る樹林地保全への支援」が46.2%で最も高く、次いで「公園や道路などで住民が行う花壇づくりや清掃などのボランティア活動への支援」38.3%、「住宅の敷地内にある樹木などの保全への支援」32.7%、「自宅や事業所などでの敷地の緑化や屋上緑化などへの支援」22.5%、「身近な自然やいきものと触れ合いながら学び体験することができる観察会や講座などの実施」19.9%の順となっている。

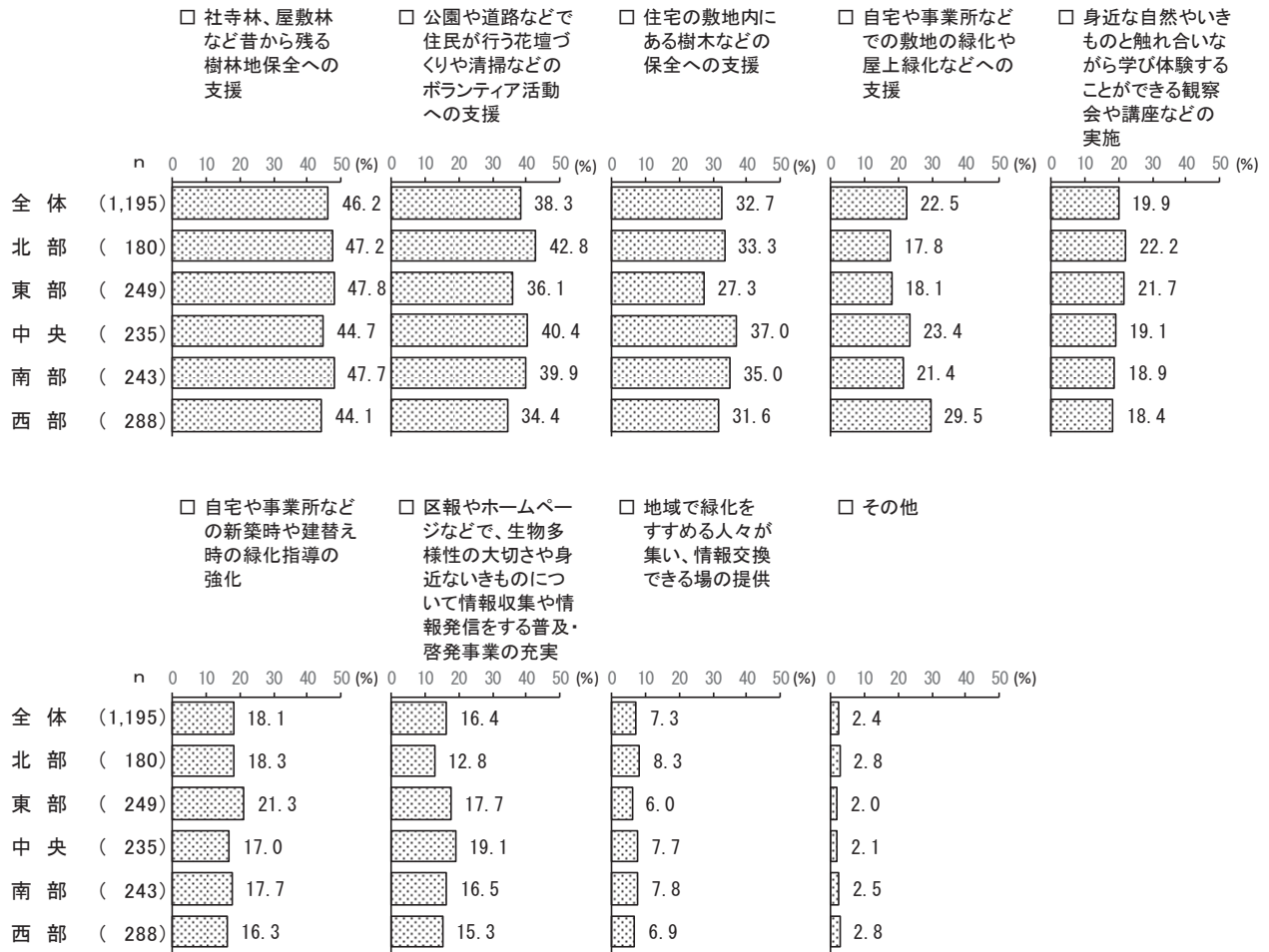
図 12-3-1 自然と共生する暮らしを実践するために区が取り組むべきこと（全体）



(2) 地区別

- ・「社寺林、屋敷林など昔から残る樹林地保全への支援」は各地区で4割半ば前後となっており、東部地区（47.8%）、南部地区（47.7%）、北部地区（47.2%）で高くなっている。
- ・「公園や道路などで住民が行う花壇づくりや清掃などのボランティア活動への支援」は北部地区（42.8%）、「住宅の敷地内にある樹木などの保全への支援」は中央地区（37.0%）、「自宅や事業所などでの敷地の緑化や屋上緑化などへの支援」は西部地区（29.5%）で高くなっている。

図 12-3-2 自然と共生する暮らしを実践するために区が取り組むべきこと（地区別）

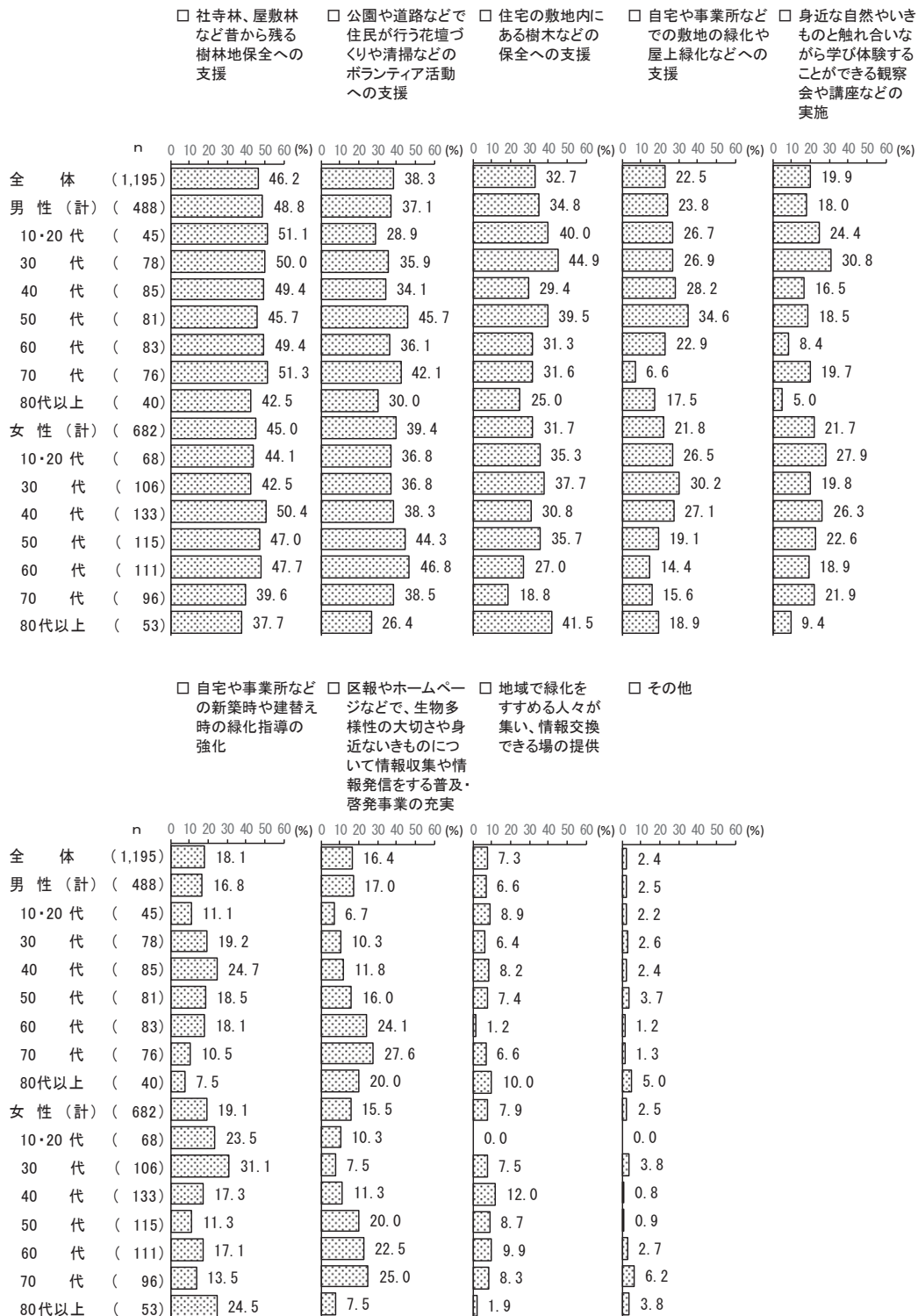




### (3) 性・年代別

- ・「社寺林、屋敷林など昔から残る樹林地保全への支援」は男性の70代(51.3%)と10・20代(51.1%)、女性の40代(50.4%)で高くなっている。
- ・「公園や道路などで住民が行う花壇づくりや清掃などのボランティア活動への支援」は女性の60代(46.8%)、「住宅の敷地内にある樹木などの保全への支援」は男性の30代(44.9%)、「自宅や事業所などでの敷地の緑化や屋上緑化などへの支援」は男性の50代(34.6%)で高くなっている。

図12-3-3 自然と共生する暮らしを实践するために区が取り組むべきこと(性・年代別)





## 13. 地球温暖化対策

地球温暖化対策について、世界では、新たな気候変動対策に関する「パリ協定」が発効し、日本では、地球温暖化対策を推進するための計画である「地球温暖化対策計画」が閣議決定されました。この計画では、温室効果ガスを2030（平成42）年度までに2013（平成25）年度比で26%削減することを目標としています。

目黒区では、平成26年3月に策定した「目黒区地球温暖化対策地域推進計画（第二次計画）」に基づき、地球温暖化対策を推進しています。また、目黒区は大規模な事業所の一つとして「目黒区地球温暖化対策推進第二次実行計画（めぐろエコ・プランⅡ）」を策定し、温室効果ガスの排出量の削減に取り組んでいます。

### 13-1 地球温暖化問題への意識

問38 あなたは、生活の中で地球温暖化の問題を意識していますか。（○は1つ）

- ・「大いに意識している」と「意識している」を合わせた『意識している』は6割半ばとなっており、男性の60代と80代以上、女性の60代で高くなっている。
- ・「あまり意識していない」と「まったく意識していない」を合わせた『意識していない』は3割近くとなっており、男性、女性ともに低い年代ほど割合が高い傾向にあり、10・20代と30代で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「大いに意識している」12.4%と「意識している」53.4%を合わせた『意識している』は65.8%となっている。一方、「あまり意識していない」24.6%と「まったく意識していない」3.8%を合わせた『意識していない』は28.4%となっている。
- ・地球温暖化問題への意識の推移をみると、『意識している』は前回（平成26年）より4.2ポイント減少している。

図13-1-1 地球温暖化問題への意識（全体）

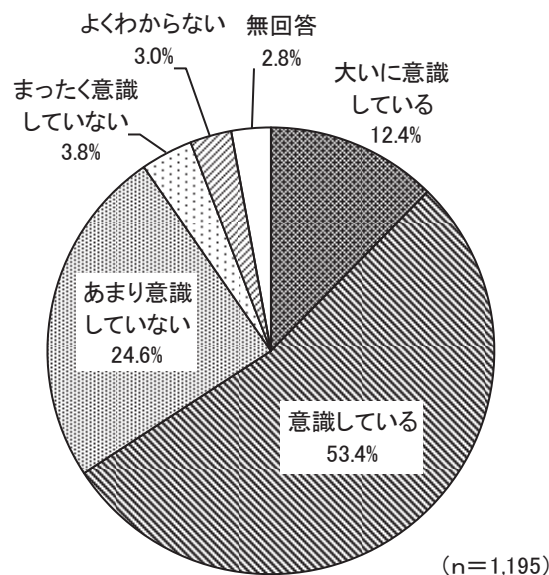
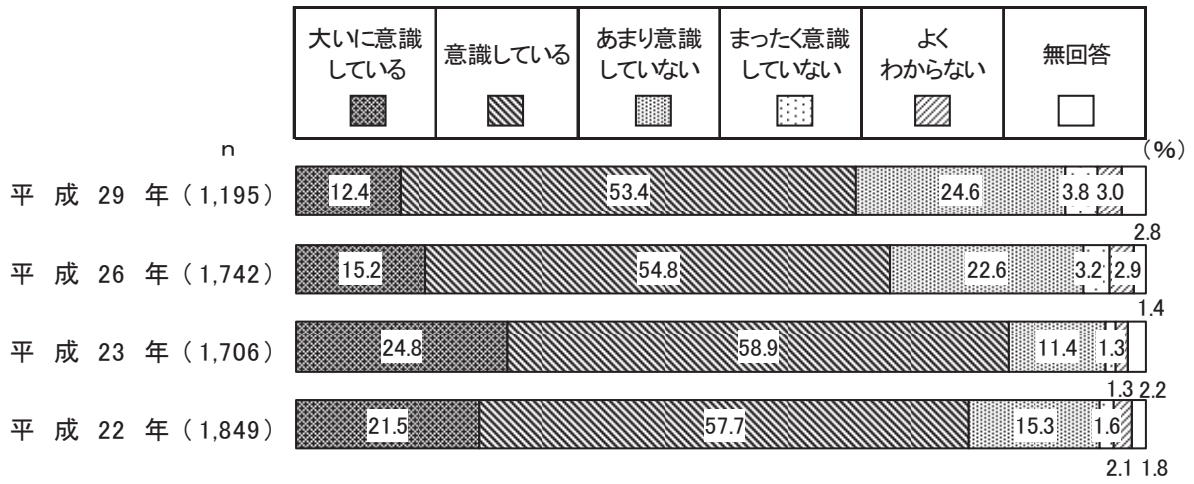


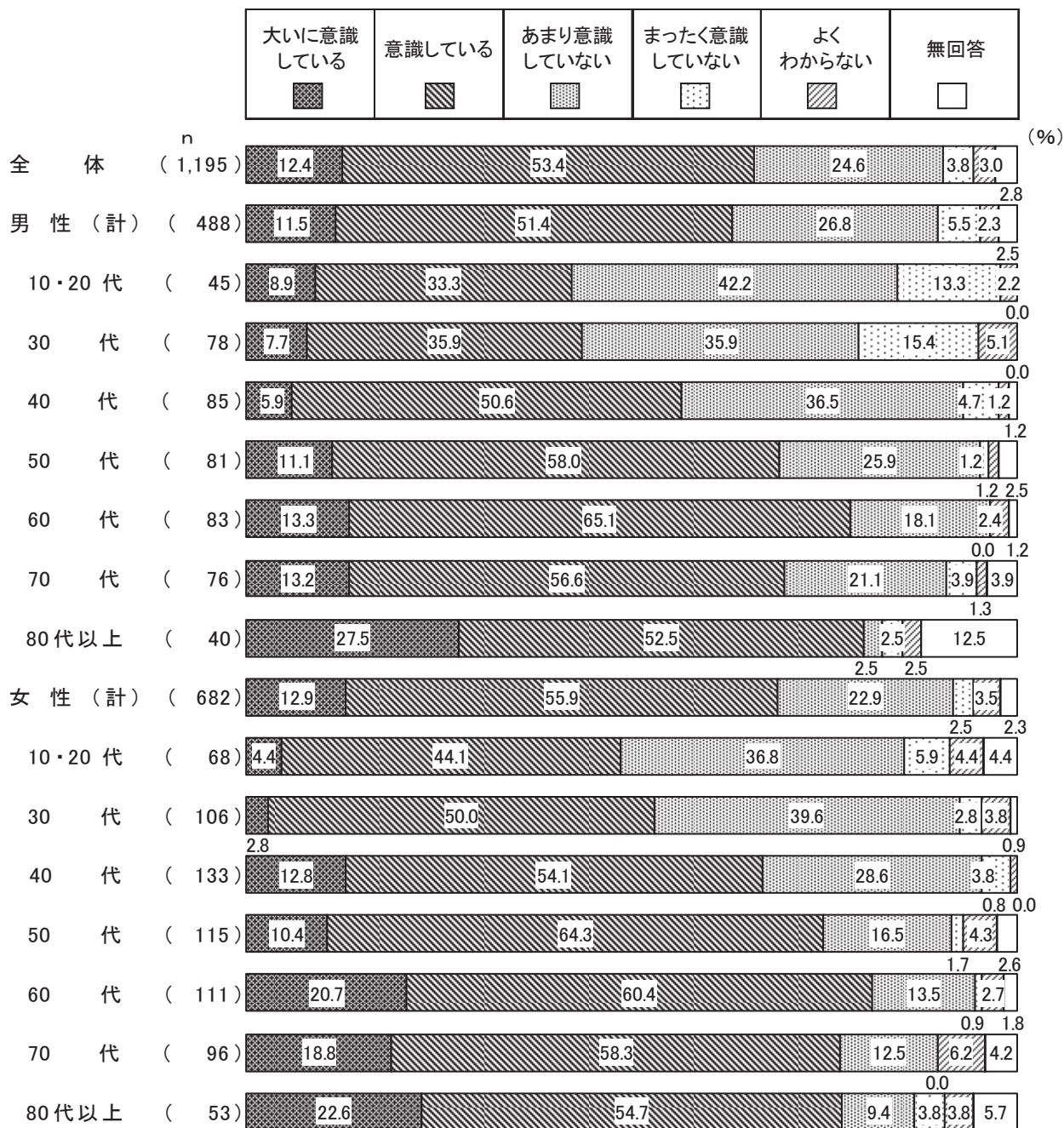
図 13-1-2 地球温暖化問題への意識の推移（全体）



(2) 性・年代別

- ・『意識している』は男性、女性ともに高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、男性の80代以上(80.0%)と60代(78.4%)、女性の60代(81.1%)で高くなっている。
- ・『意識していない』は男性、女性ともに低い年代ほど割合が高い傾向にあり、10・20代(男性55.5%、女性42.7%)と30代(男性51.3%、女性42.4%)で高くなっている。

図 13-1-3 地球温暖化問題への意識(性・年代別)



## 13-2 地球温暖化防止のために優先して行いたいこと

問39 あなたは、地球温暖化を防止するために、今後何を優先して行いたいと思いますか。

(○は3つまで)

- ・「ごみの減量・リサイクル」が6割半ばで最も高く、次いで「節電・節水などの省エネルギー行動」、「環境に配慮した製品(省エネ家電など)の購入」、「屋上緑化や身近なみどりを増やす」の順となっている。
- ・「ごみの減量・リサイクル」、「節電・節水などの省エネルギー行動」、「環境に配慮した製品(省エネ家電など)の購入」は女性が男性を上回っており、「ごみの減量・リサイクル」は女性の50代と60代で高くなっている。

### (1) 全体

- ・「ごみの減量・リサイクル」が65.9%で最も高く、次いで「節電・節水などの省エネルギー行動」63.4%、「環境に配慮した製品(省エネ家電など)の購入」33.2%、「屋上緑化や身近なみどりを増やす」16.8%、「自動車・自動二輪車の使用抑制」14.1%の順となっている。
- ・地球温暖化防止のために優先して行いたいことの推移をみると、「ごみの減量・リサイクル」は前回(平成26年)より3.6ポイント増加、「節電・節水などの省エネルギー行動」は前回(平成26年)より6.3ポイント減少、「環境に配慮した製品(省エネ家電など)の購入」は前回(平成26年)より15.1ポイント減少している。

図13-2-1 地球温暖化防止のために優先して行いたいこと(全体)

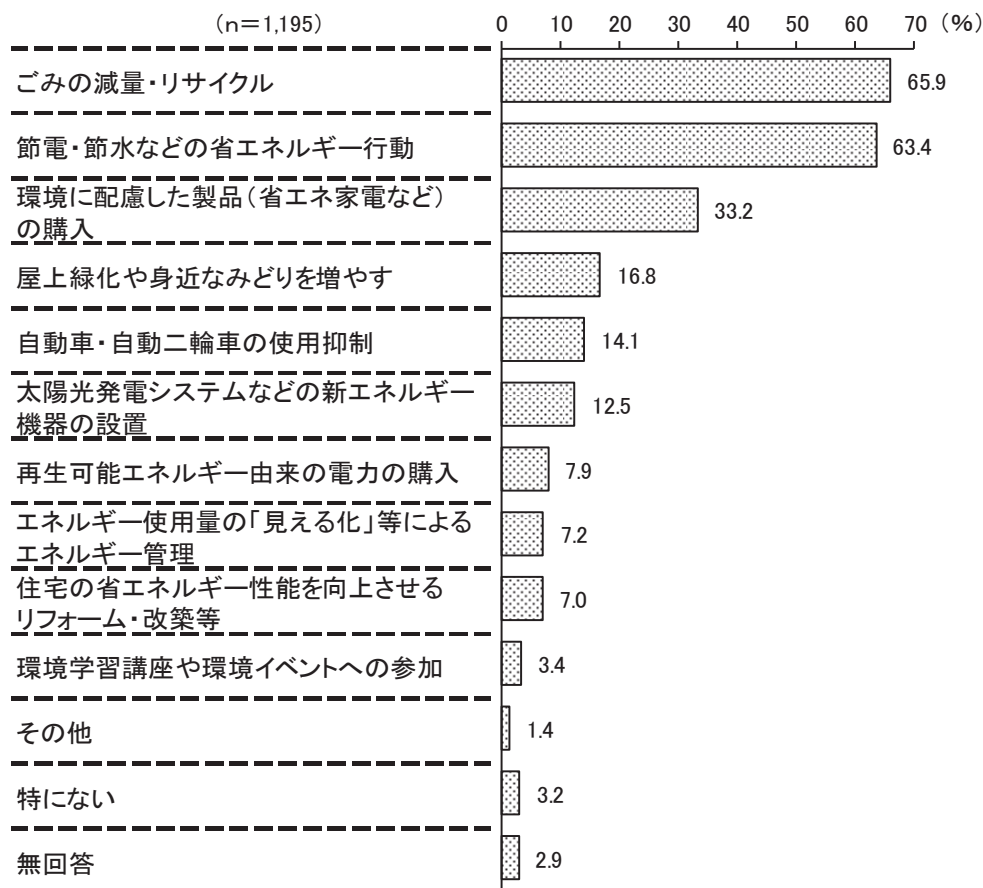
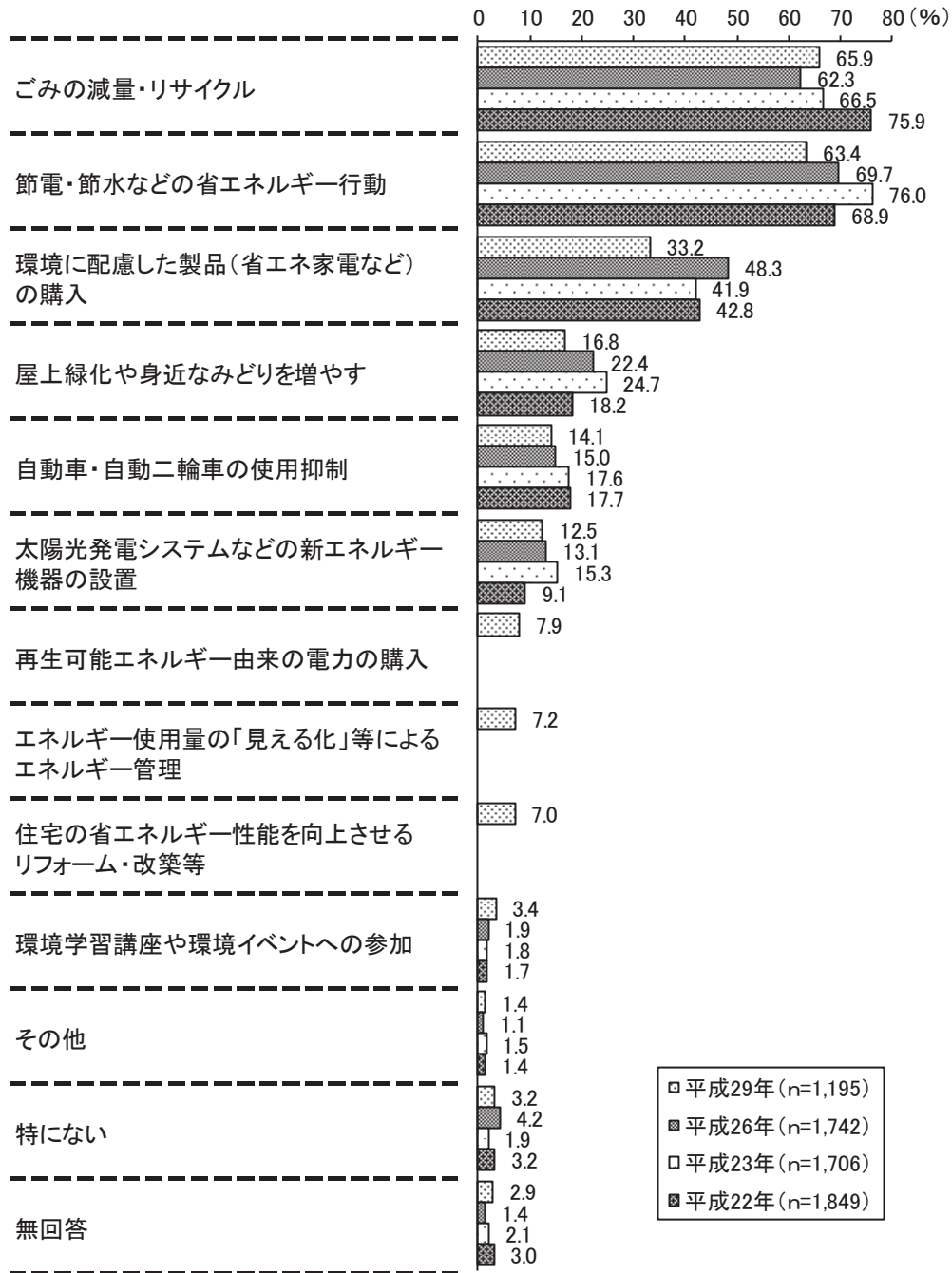


図 13-2-2 地球温暖化防止のために優先して行いたいことの推移（全体）

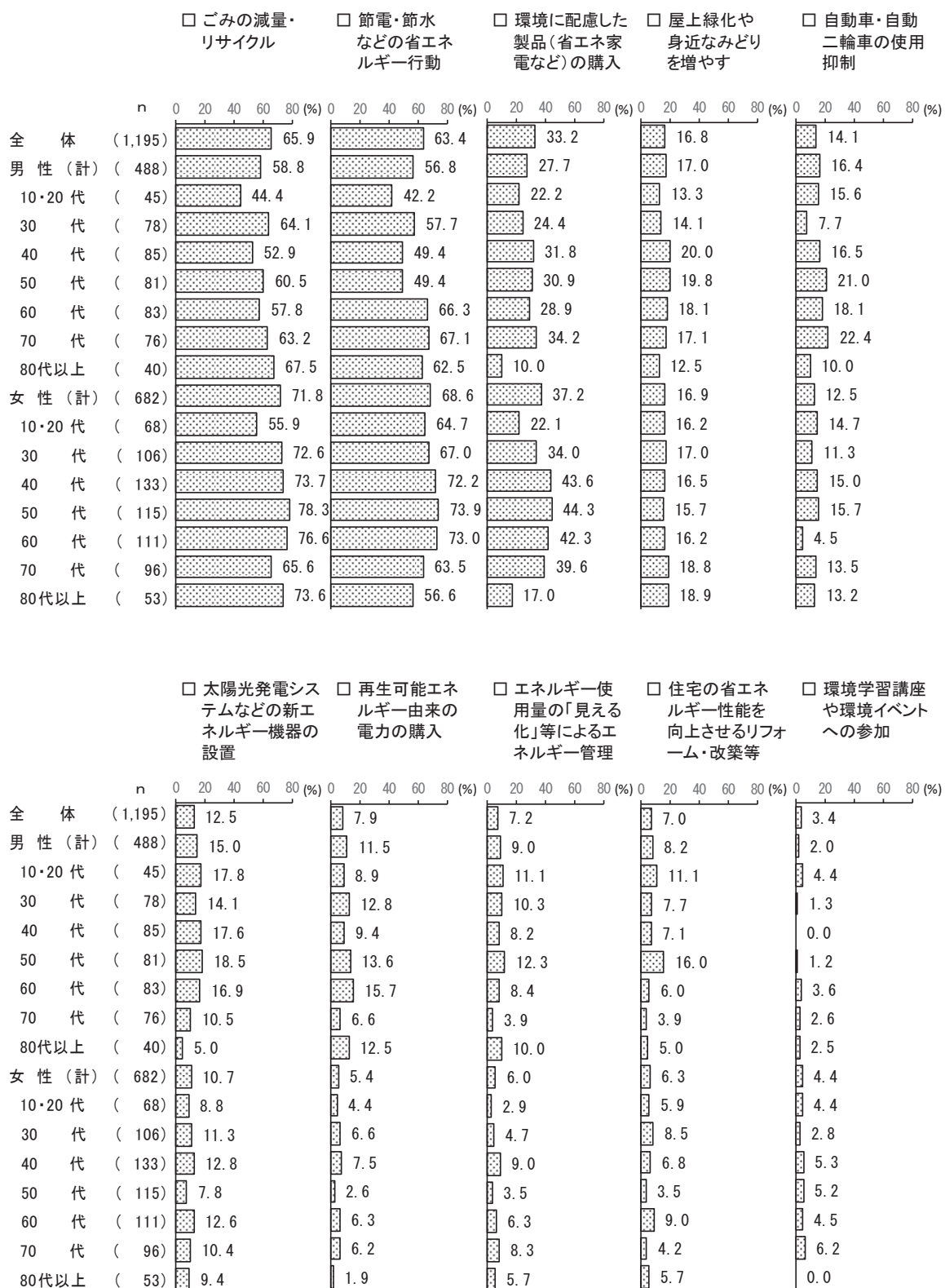


※「再生可能エネルギー由来の電力の購入」、「エネルギー使用量の「見える化」等によるエネルギー管理」、「住宅の省エネルギー性能を向上させるリフォーム・改築等」は今回調査から新設した選択肢

(2) 性・年代別

- ・「ごみの減量・リサイクル」、「節電・節水などの省エネルギー行動」、「環境に配慮した製品(省エネ家電など)の購入」は、女性が男性を(それぞれ 13.0 ポイント、11.8 ポイント、9.5 ポイント)上回っている。
- ・「ごみの減量・リサイクル」は女性の 50 代(78.3%)と 60 代(76.6%)で高くなっている。

図 13-2-3 地球温暖化防止のために優先して行いたいこと(性・年代別)





### 13-3 地球温暖化防止のために区に取り組んでほしいこと

問40 地球温暖化を防止するために、区に特に力を入れて取り組んでほしいと思うことは何ですか。（〇は3つまで）

- ・「新エネルギー・省エネルギー機器の導入にかかる助成」が3割半ばで最も高く、次いで「日常生活や事業活動における省エネルギーに関する情報提供」、「学校での環境教育・学習の推進」、「屋上緑化や壁面緑化等の導入にかかる助成」の順となっている。
- ・「新エネルギー・省エネルギー機器の導入にかかる助成」は男性が女性を上回っている。
- ・「日常生活や事業活動における省エネルギーに関する情報提供」は女性が男性を上回っており、女性の60代で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「新エネルギー・省エネルギー機器の導入にかかる助成」が33.8%で最も高く、次いで「日常生活や事業活動における省エネルギーに関する情報提供」29.8%、「学校での環境教育・学習の推進」28.7%、「屋上緑化や壁面緑化等の導入にかかる助成」27.3%、「みどりの保全・創出への取組み」26.7%の順となっている。
- ・地球温暖化防止のために区に取り組んでほしいことの推移をみると、「みどりの保全・創出への取組み」は前回（平成26年）より13.0ポイント減少している。

図13-3-1 地球温暖化防止のために区に取り組んでほしいこと（全体）

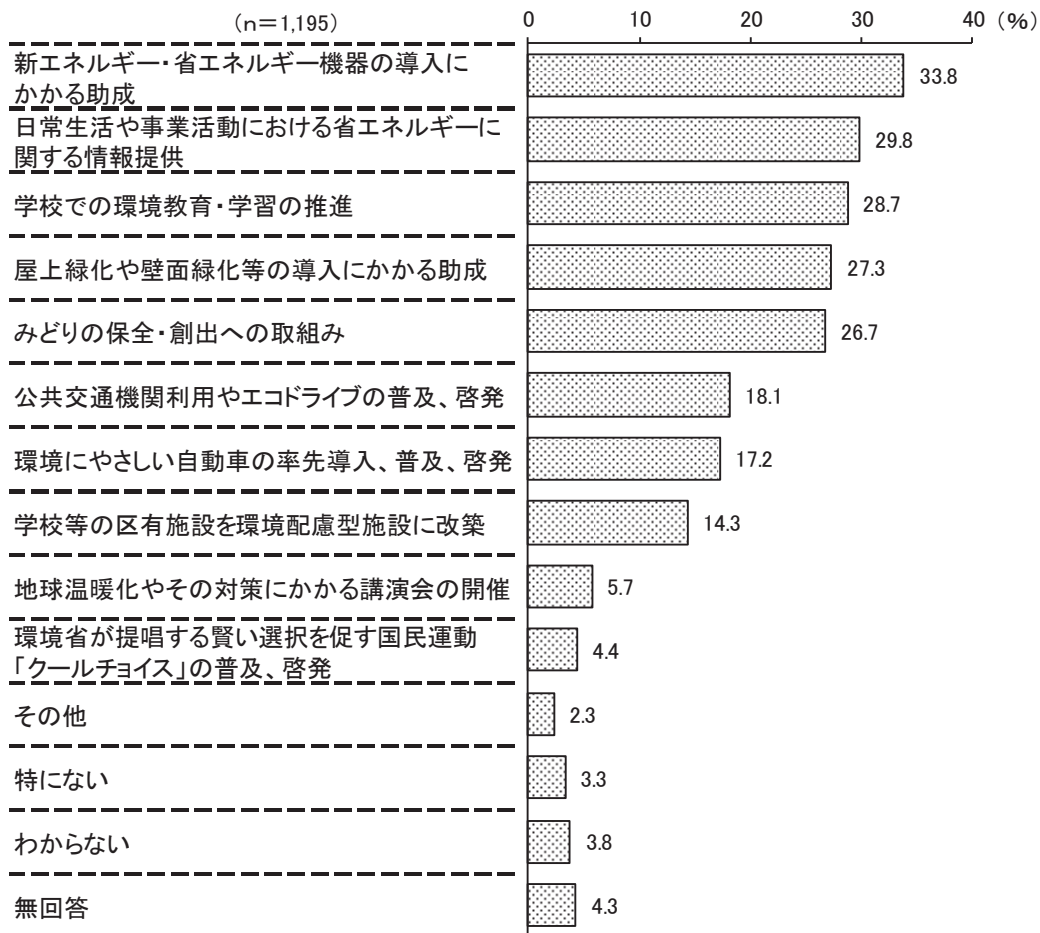
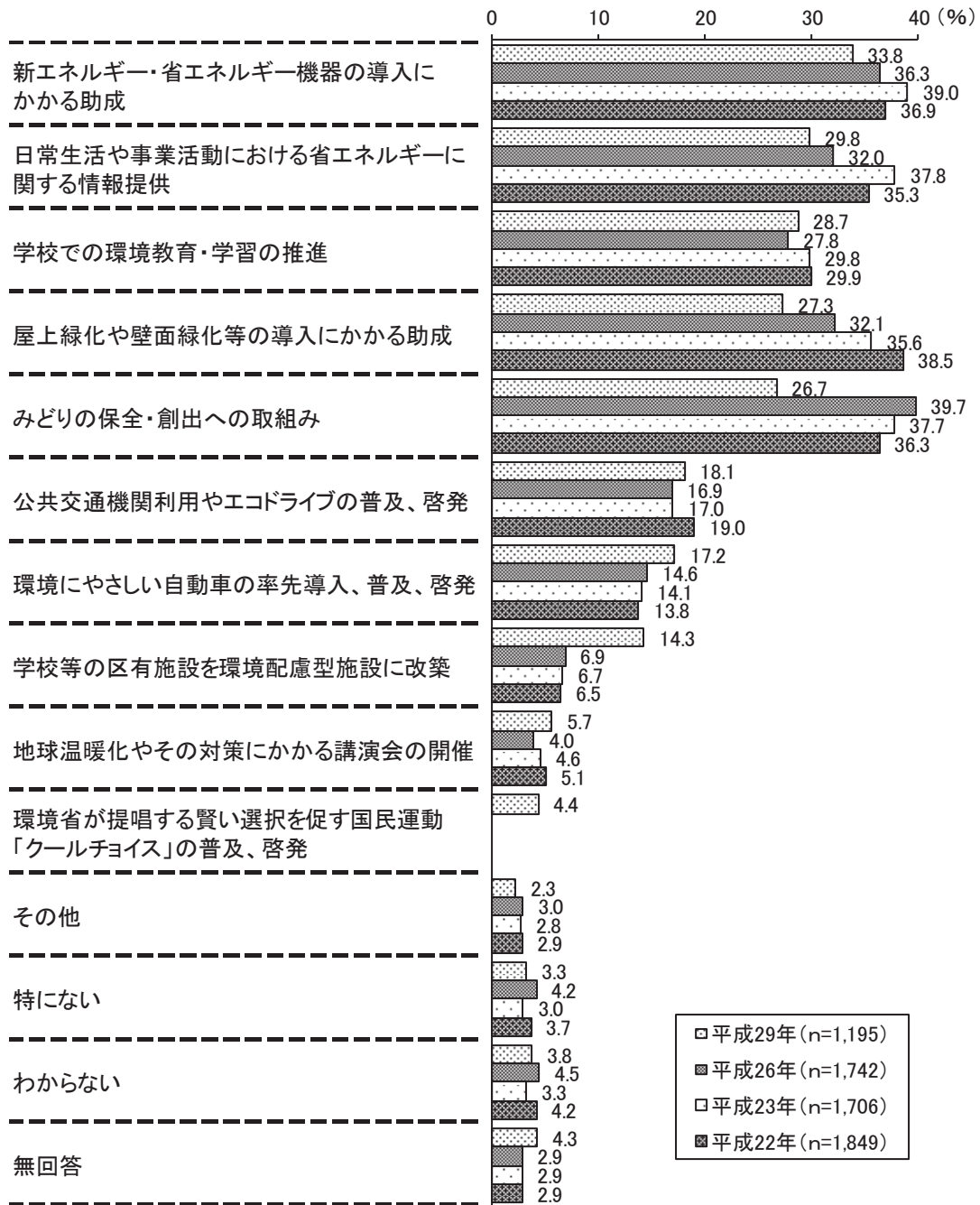




図 13-3-2 地球温暖化防止のために区に取り組んでほしいことの推移（全体）

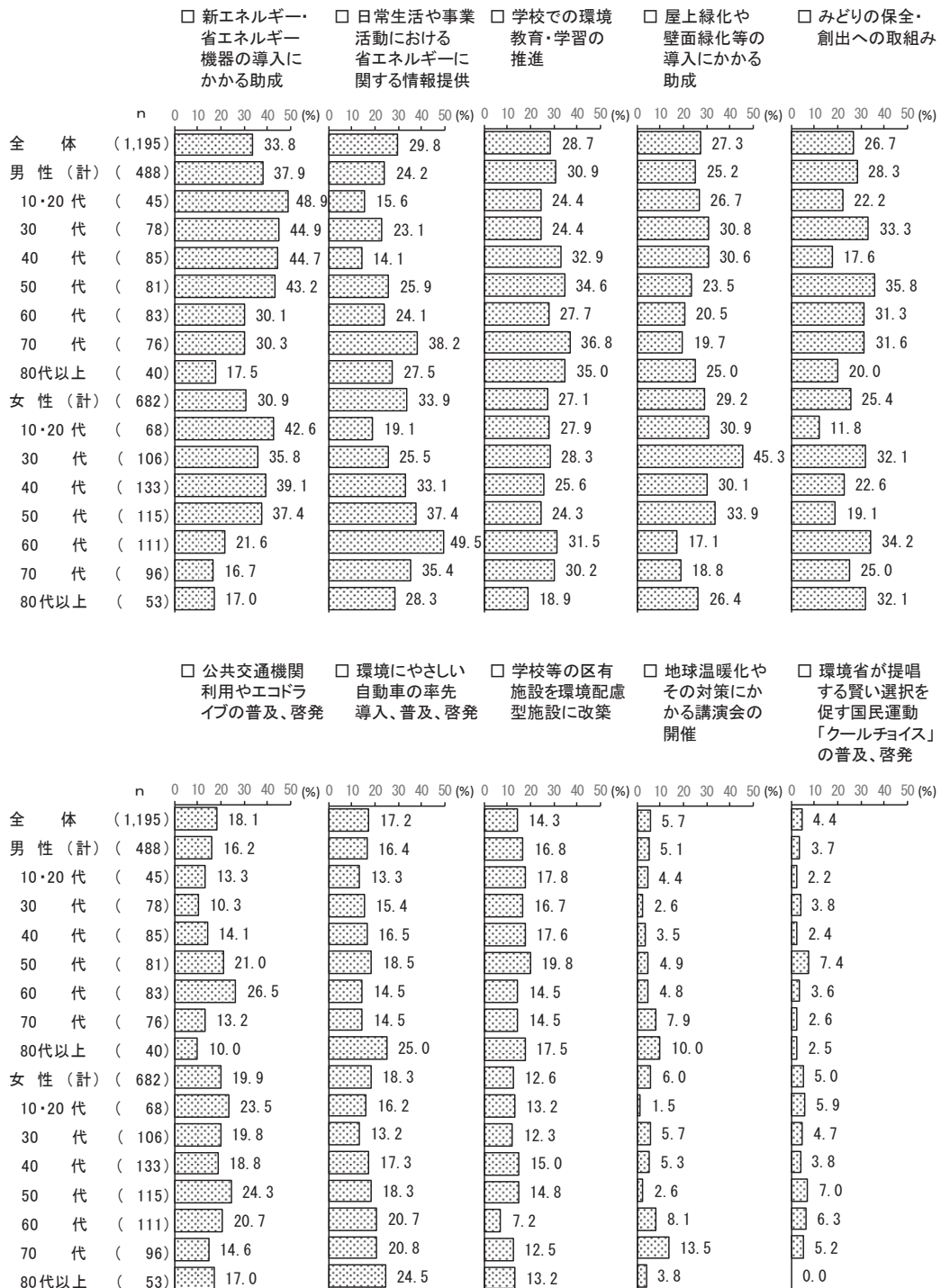


※「環境省が提唱する賢い選択を促す国民運動「クールチョイス」の普及、啓発」は今回調査から新設した選択肢

(2) 性・年代別

- ・「新エネルギー・省エネルギー機器の導入にかかる助成」は男性（37.9%）が女性（30.9%）を7.0ポイント上回っており、男性、女性ともに10・20代～50代で高く、男性の10・20代（48.9%）で最も高くなっている。
- ・「日常生活や事業活動における省エネルギーに関する情報提供」は女性（33.9%）が男性（24.2%）を9.7ポイント上回っており、女性の60代（49.5%）で最も高くなっている。
- ・「学校での環境教育・学習の推進」は男性の70代（36.8%）と80代以上（35.0%）、「屋上緑化や壁面緑化等の導入にかかる助成」は女性の30代（45.3%）で高くなっている。

図 13-3-3 地球温暖化防止のために区に取り組んでほしいこと【上位10項目】（性・年代別）



## 14. 生涯学習

区では、区民一人ひとりが生涯を通じて、いつでも、どこでも、自由に学習機会を選択し、生き生きと学び、学び合うことができる学習社会の実現に向け、生涯学習の基盤整備を進めています。生涯学習活動の拠点として、区には社会教育館、緑が丘文化会館および青少年プラザがあり、家庭教育学級など各種の社会教育講座を行っているほか、団体等のスポーツ、文化活動、ボランティア活動、趣味などのさまざまな学習活動の拠点として利用されています。また、生涯学習活動には、こうした社会教育のほか、『自ら学ぶ』自己学習として、図書館で本を借りて読んだり、テレビの公開講座を視聴したりすることも含まれます。

### 14-1 生涯学習活動への参加状況

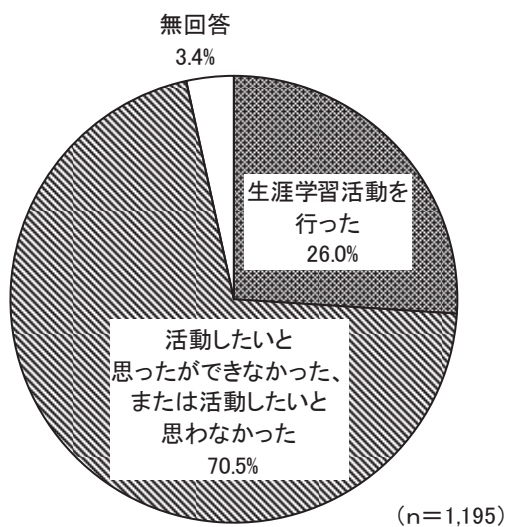
問41 あなたは、この1年間に、生涯学習活動を行ったことがありますか。(○は1つ)

- ・「生涯学習活動を行った」が2割半ば、「活動したいと思ったができなかった、または活動したいと思わなかった」がほぼ7割となっている。
- ・「生涯学習活動を行った」は女性が男性を上回っており、男性の70代と女性の60代で高くなっている。また、主に家事に従事、パート・アルバイト、学生で高くなっている。
- ・「活動したいと思ったができなかった、または活動したいと思わなかった」は男性の40代～60代、女性の50代、常勤の勤め人と自営業・事業主で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「生涯学習活動を行った」が26.0%、「活動したいと思ったができなかった、または活動したいと思わなかった」が70.5%となっている。

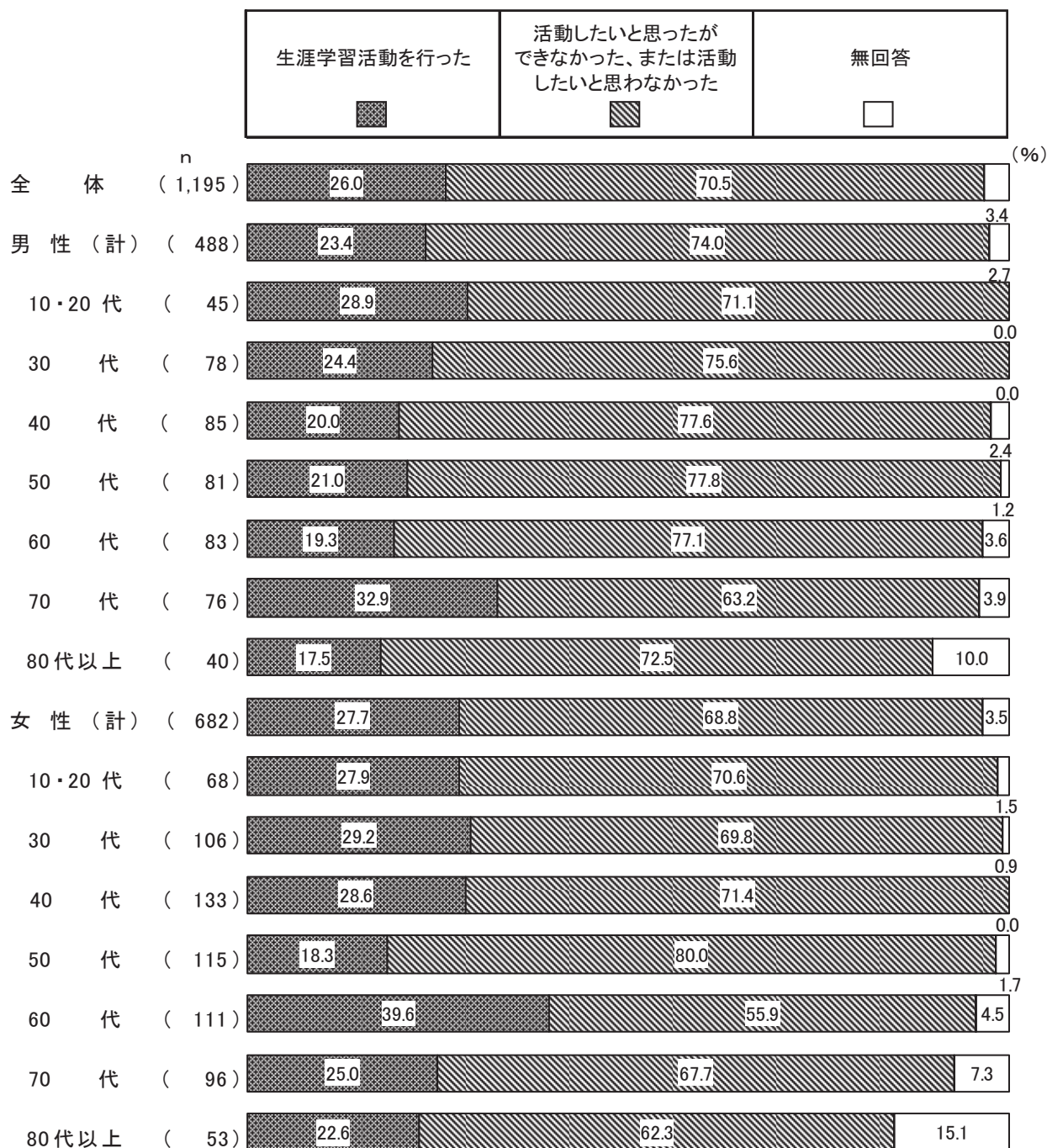
図 14-1-1 生涯学習活動への参加状況（全体）



(2) 性・年代別

- ・「生涯学習活動を行った」は女性（27.7%）が男性（23.4%）を4.3ポイント上回っており、男性の70代（32.9%）と女性の60代（39.6%）で高くなっている。
- ・「活動したいと思ったができなかった、または活動したいと思わなかった」は男性の40代～60代（40代から順に77.6%、77.8%、77.1%）、女性の50代（80.0%）で高くなっている。

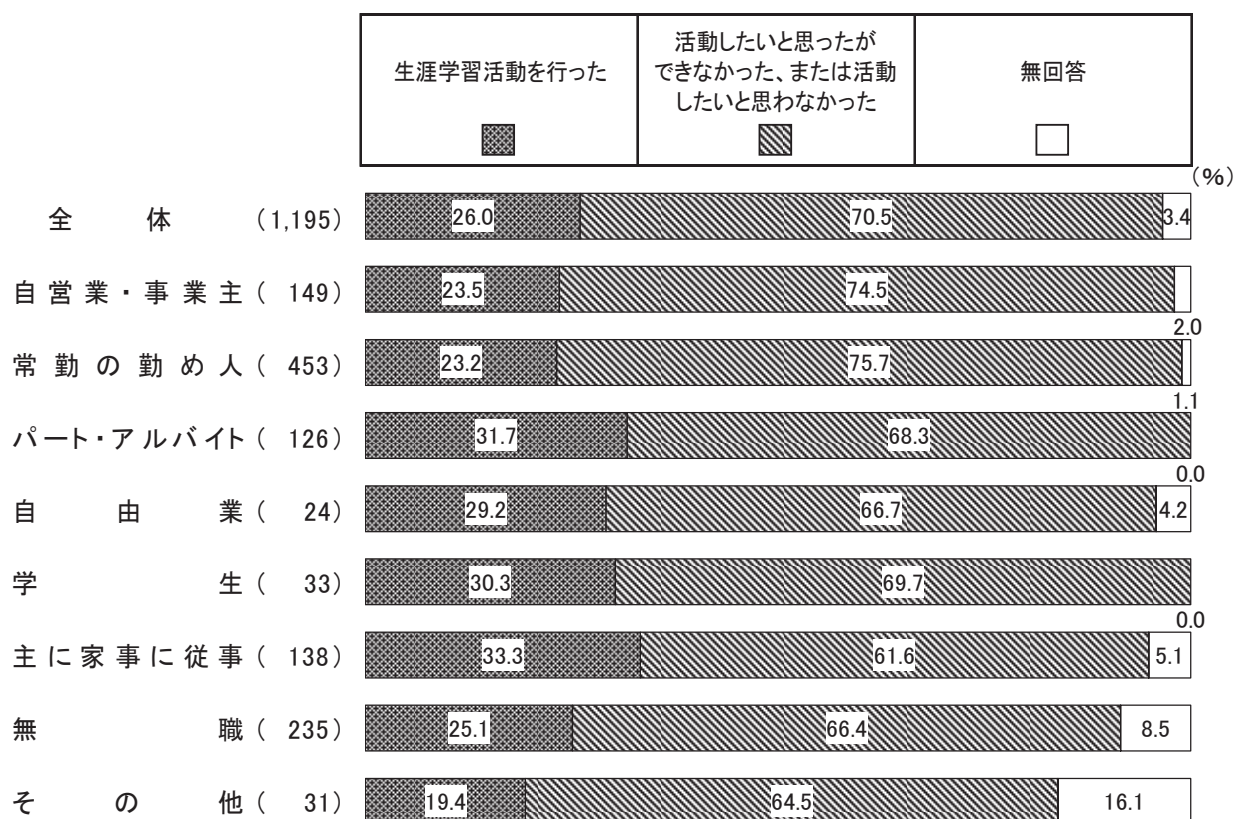
図 14-1-2 生涯学習活動への参加状況（性・年代別）



(3) 職業別

- ・「生涯学習活動を行った」は主に家事に従事(33.3%)、パート・アルバイト(31.7%)、学生(30.3%)で高くなっている。
- ・「活動したいと思ったができなかった、または活動したいと思わなかった」は常勤の勤め人(75.7%)と自営業・事業主(74.5%)で高くなっている。

図 14-1-3 生涯学習活動への参加状況（職業別）



## 14-2 参加した生涯学習活動

(問41で、「生涯学習活動を行った」と回答した方にお尋ねします)

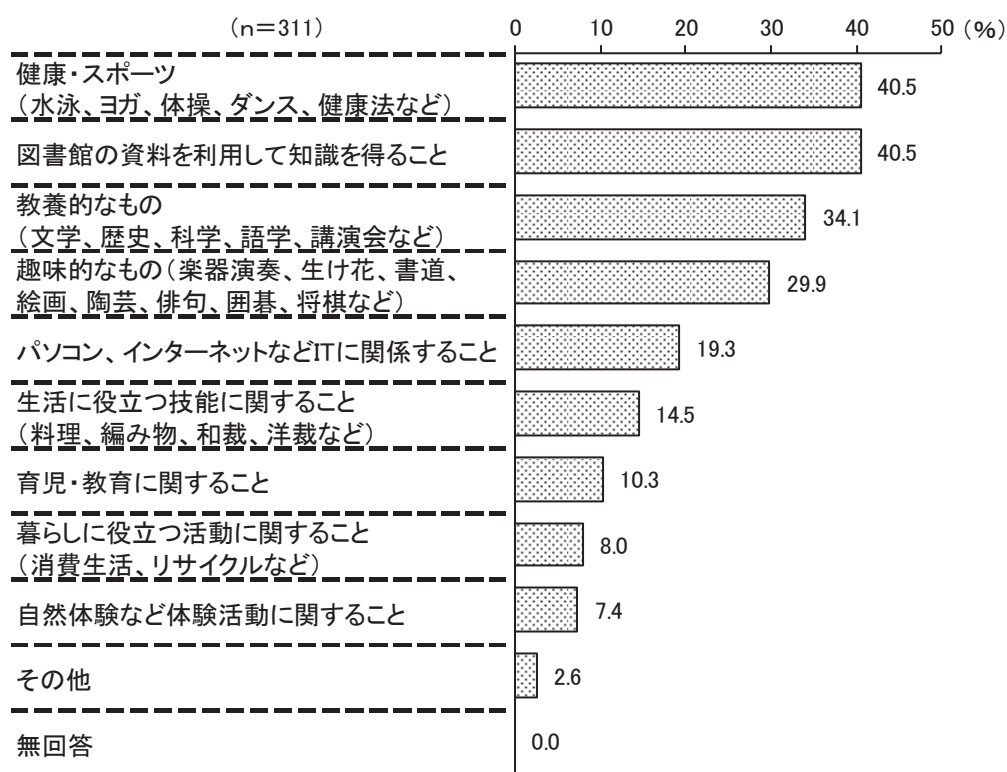
問41-1 どのような生涯学習活動に参加しましたか。(〇はいくつでも)

- ・「健康・スポーツ」と「図書館の資料を利用して知識を得ること」がほぼ4割で最も高く、次いで「教養的なもの」が3割半ば、「趣味的なもの」が3割となっている。
- ・「健康・スポーツ」は男性、女性ともに60代で最も高くなっている。「趣味的なもの」は女性が男性を上回り、男性の80代以上、女性の60代と80代以上で高くなっている。「パソコン、インターネットなどITに関係すること」は男性が女性を上回り、男性の10・20代で高くなっている。

### (1) 全体

- ・「健康・スポーツ」と「図書館の資料を利用して知識を得ること」が40.5%で最も高く、次いで「教養的なもの」34.1%、「趣味的なもの」29.9%、「パソコン、インターネットなどITに関係すること」19.3%の順となっている。

図14-2-1 参加した生涯学習活動(全体)

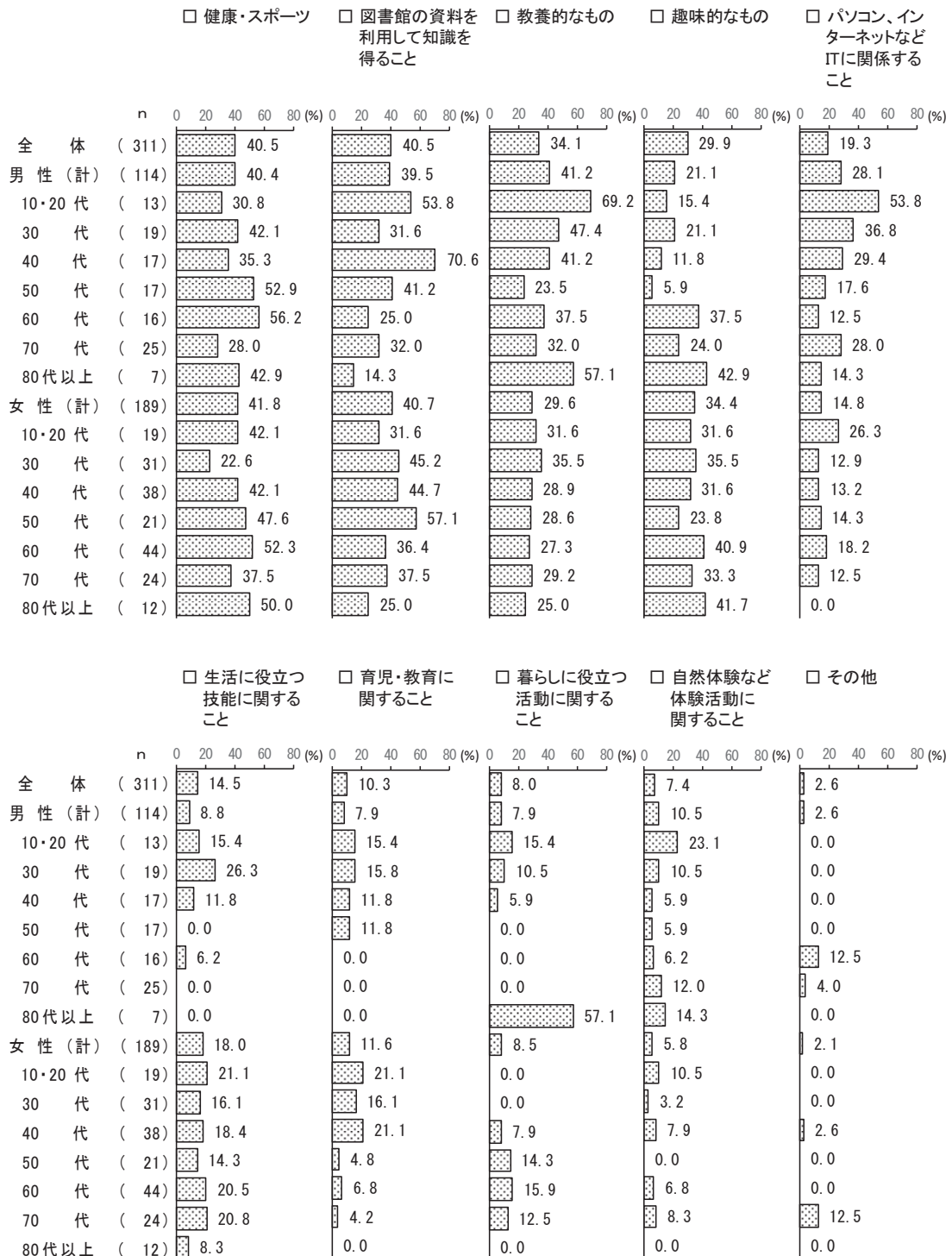




(2) 性・年代別

- ・「健康・スポーツ」は男性、女性ともに60代（男性56.2%、女性52.3%）で高くなっている。「図書館の資料を利用して知識を得ること」は男性の40代（70.6%）、「教養的なもの」は男性の10・20代（69.2%）と80代以上（57.1%）で高くなっている。
- ・「教養的なもの」は男性（41.2%）が女性（29.6%）を11.6ポイント上回り、「パソコン、インターネットなどITに関係すること」も男性（28.1%）が女性（14.8%）を13.3ポイント上回っている。一方、「趣味的なもの」は女性（34.4%）が男性（21.1%）を13.3ポイント上回っている。

図 14-2-2 参加した生涯学習活動（性・年代別）





### 14-3 生涯学習活動をしない理由

(問41で、「活動したいと思ったができなかった、または活動したいと思わなかった」と回答した方にお尋ねします)

問41-2 あなたが生涯学習活動をできなかった、またはしなかった理由を教えてください。

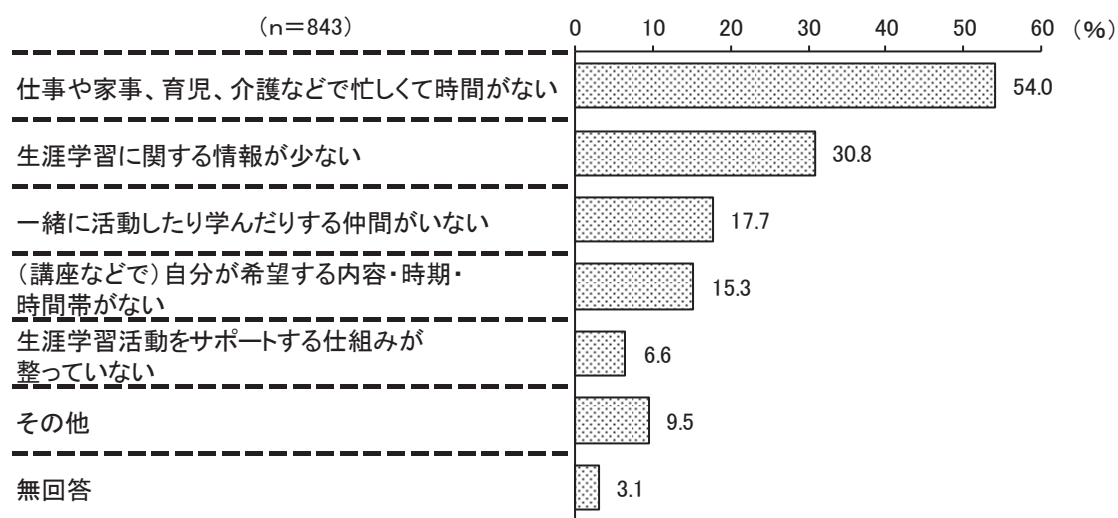
(○はいくつでも)

- ・「仕事や家事、育児、介護などで忙しくて時間がない」が5割半ばで最も高く、次いで「生涯学習に関する情報が少ない」がほぼ3割となっている。
- ・「仕事や家事、育児、介護などで忙しくて時間がない」は女性が男性を上回っており、男性の40代と女性の30代で高くなっている。
- ・「生涯学習に関する情報が少ない」は男性が女性を上回っており、男性の60代で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「仕事や家事、育児、介護などで忙しくて時間がない」が54.0%で最も高く、次いで「生涯学習に関する情報が少ない」30.8%、「一緒に活動したり学んだりする仲間がいない」17.7%、「(講座などで)自分が希望する内容・時期・時間帯がない」15.3%の順となっている。

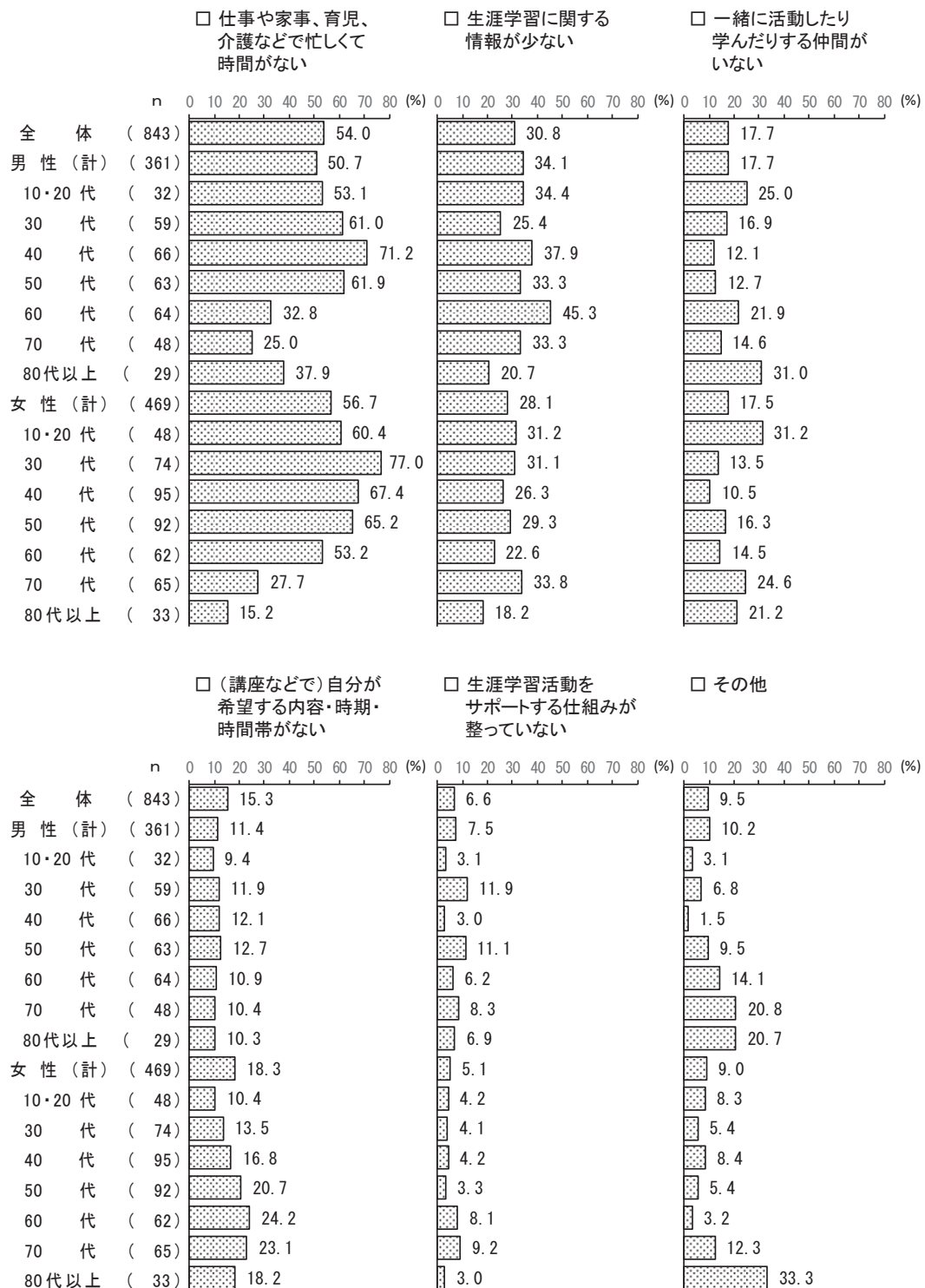
図14-3-1 生涯学習活動をしない理由(全体)



(2) 性・年代別

- ・「仕事や家事、育児、介護などで忙しくて時間がない」は女性（56.7%）が男性（50.7%）を6.0ポイント上回っており、男性の40代（71.2%）と女性の30代（77.0%）で高くなっている。
- ・「生涯学習に関する情報が少ない」は男性（34.1%）が女性（28.1%）を6.0ポイント上回っており、男性の60代（45.3%）で高くなっている。
- ・「一緒に活動したり学んだりする仲間がいない」は男性の80代以上（31.0%）と10・20代（25.0%）、女性の10・20代（31.2%）で高くなっている。

図 14-3-2 生涯学習活動をしていない理由（性・年代別）



## 14-4 生涯学習の推進のために必要なこと

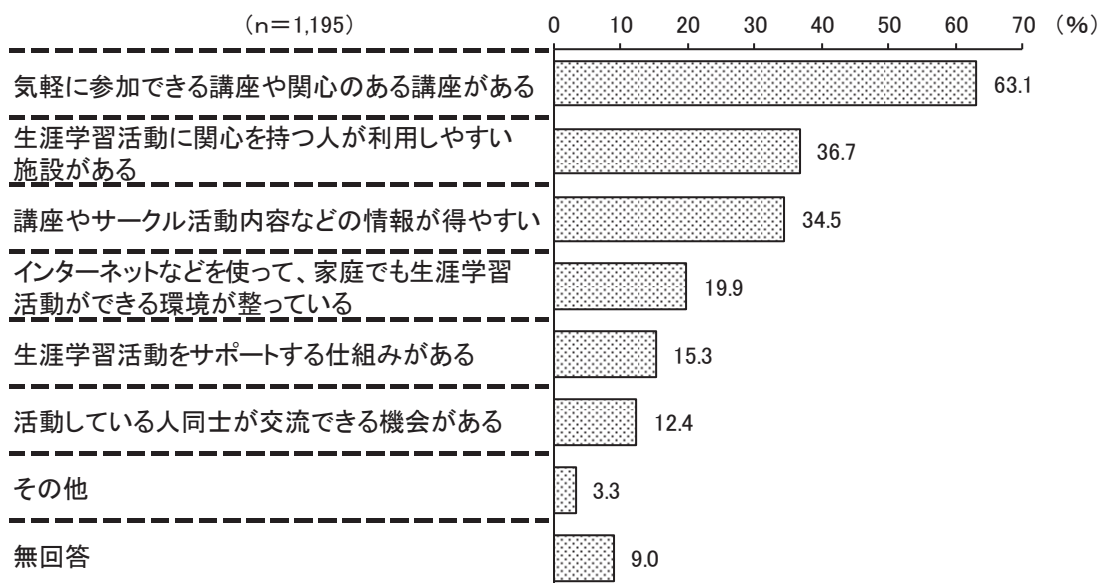
問42 あなたは、生涯学習の推進のために、どんなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- ・「気軽に参加できる講座や関心のある講座がある」が6割半ばで最も高く、次いで「生涯学習活動に関心を持つ人が利用しやすい施設がある」、「講座やサークル活動内容などの情報が得やすい」の順となっている。
- ・「気軽に参加できる講座や関心のある講座がある」は女性が男性を上回っている。「講座やサークル活動内容などの情報が得やすい」も女性が男性を上回っており、女性の40代と50代で高くなっている。一方、「インターネットなどを使って、家庭でも生涯学習活動ができる環境が整っている」は男性が女性を上回っており、男性の50代で高くなっている。

### (1) 全体

- ・「気軽に参加できる講座や関心のある講座がある」が63.1%で最も高く、次いで「生涯学習活動に関心を持つ人が利用しやすい施設がある」36.7%、「講座やサークル活動内容などの情報が得やすい」34.5%、「インターネットなどを使って、家庭でも生涯学習活動ができる環境が整っている」19.9%の順となっている。

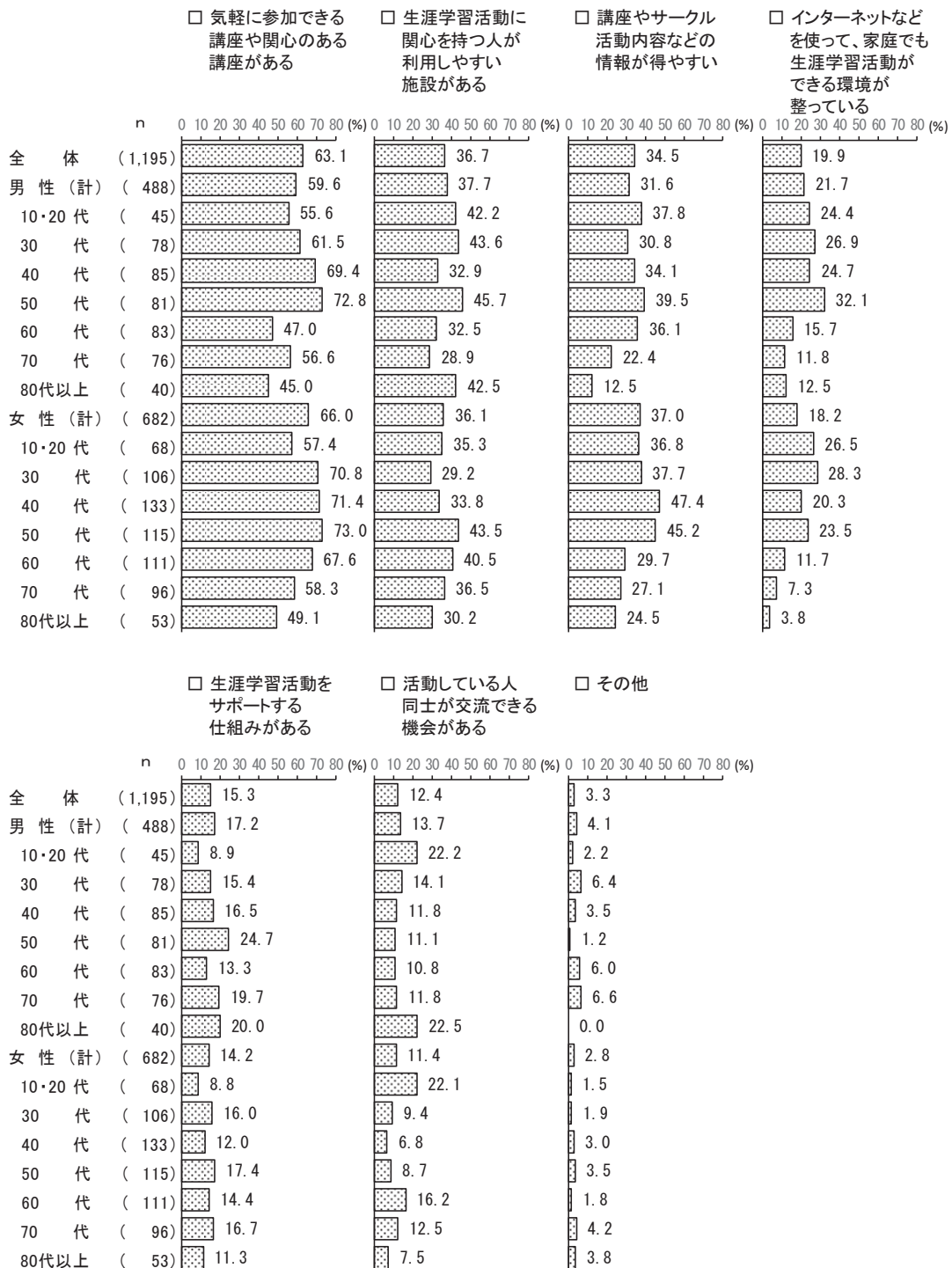
図 14-4-1 生涯学習の推進のために必要なこと (全体)



(2) 性・年代別

- ・「気軽に参加できる講座や関心のある講座がある」は女性（66.0%）が男性（59.6%）を6.4ポイント上回っており、男性の50代（72.8%）と40代（69.4%）、女性の30代～50代（30代から順に70.8%、71.4%、73.0%）で高くなっている。
- ・「講座やサークル活動内容などの情報が得やすい」も女性（37.0%）が男性（31.6%）を5.4ポイント上回っており、女性の40代（47.4%）と50代（45.2%）で高くなっている。一方、「インターネットなどを使って、家庭でも生涯学習活動ができる環境が整っている」は男性（21.7%）が女性（18.2%）を3.5ポイント上回っており、男性の50代（32.1%）で高くなっている。

図 14-4-2 生涯学習の推進のために必要なこと（性・年代別）



## 14-5 知識・経験の地域還元

問43 「これまで学校や社会で得た知識や経験」を生かした地域の活動等（例：福祉施設でギターのコンサートを行う、児童館でベーゴマや編み物を教える等）を行っていますか。

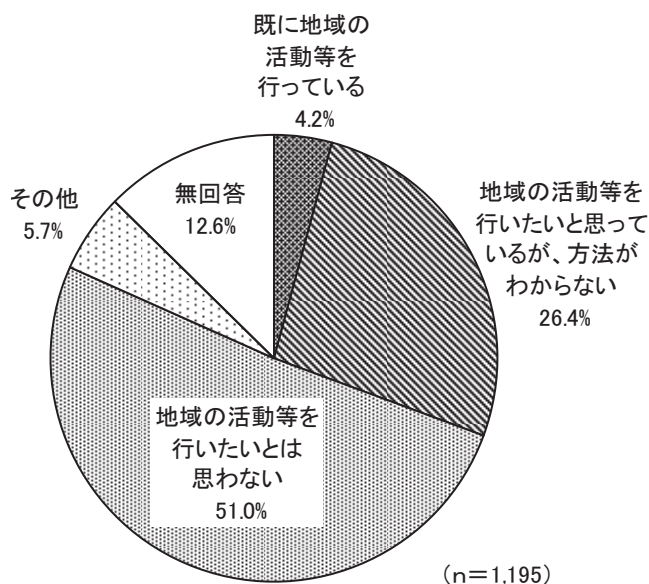
（○は1つ）

- ・「既に地域の活動等を行っている」が1割未満、「地域の活動等を行いたいと思っているが、方法がわからない」が2割半ばとなっている。一方、「地域の活動等を行いたいとは思わない」が5割を超えている。
- ・「地域の活動等を行いたいと思っているが、方法がわからない」は男性、女性ともに50代で高くなっている。また、自由業と常勤の勤め人で高くなっている。
- ・「地域の活動等を行いたいとは思わない」は男性が女性を上回り、男性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性の10・20代で最も高くなっている。また、学生と常勤の勤め人で高くなっている。

### （1）全体

- ・「既に地域の活動等を行っている」が4.2%、「地域の活動等を行いたいと思っているが、方法がわからない」が26.4%となっている。一方、「地域の活動等を行いたいとは思わない」が51.0%となっている。

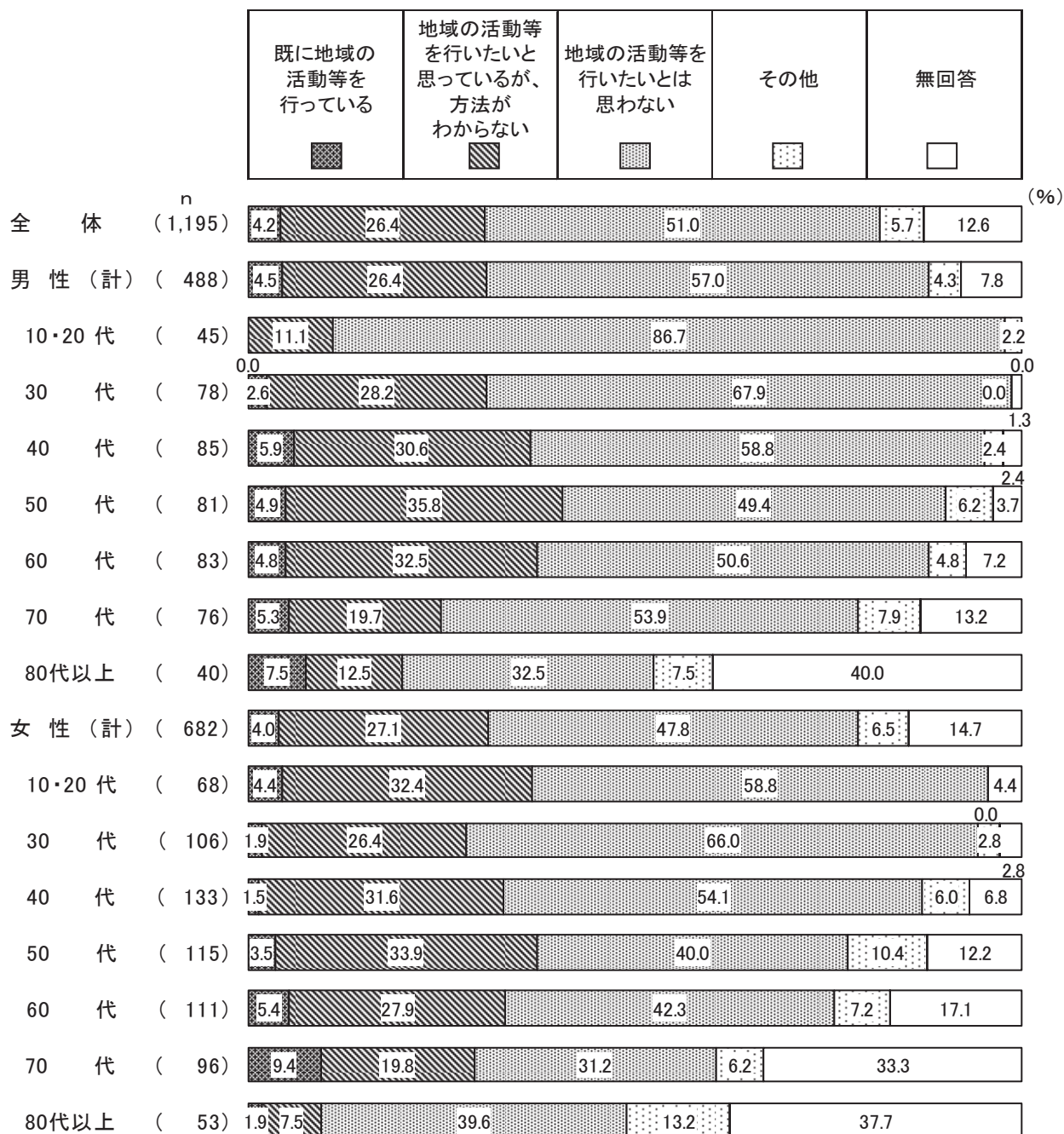
図 14-5-1 知識・経験の地域還元（全体）



(2) 性・年代別

- ・「地域の活動等を行いたいと思っているが、方法がわからない」は男性、女性ともに 50 代（男性 35.8%、女性 33.9%）で高くなっている。
- ・「地域の活動等を行いたいとは思わない」は男性（57.0%）が女性（47.8%）を 9.2 ポイント上回っている。また、男性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性の 10・20 代（86.7%）で最も高くなっている。

図 14-5-2 知識・経験の地域還元（性・年代別）

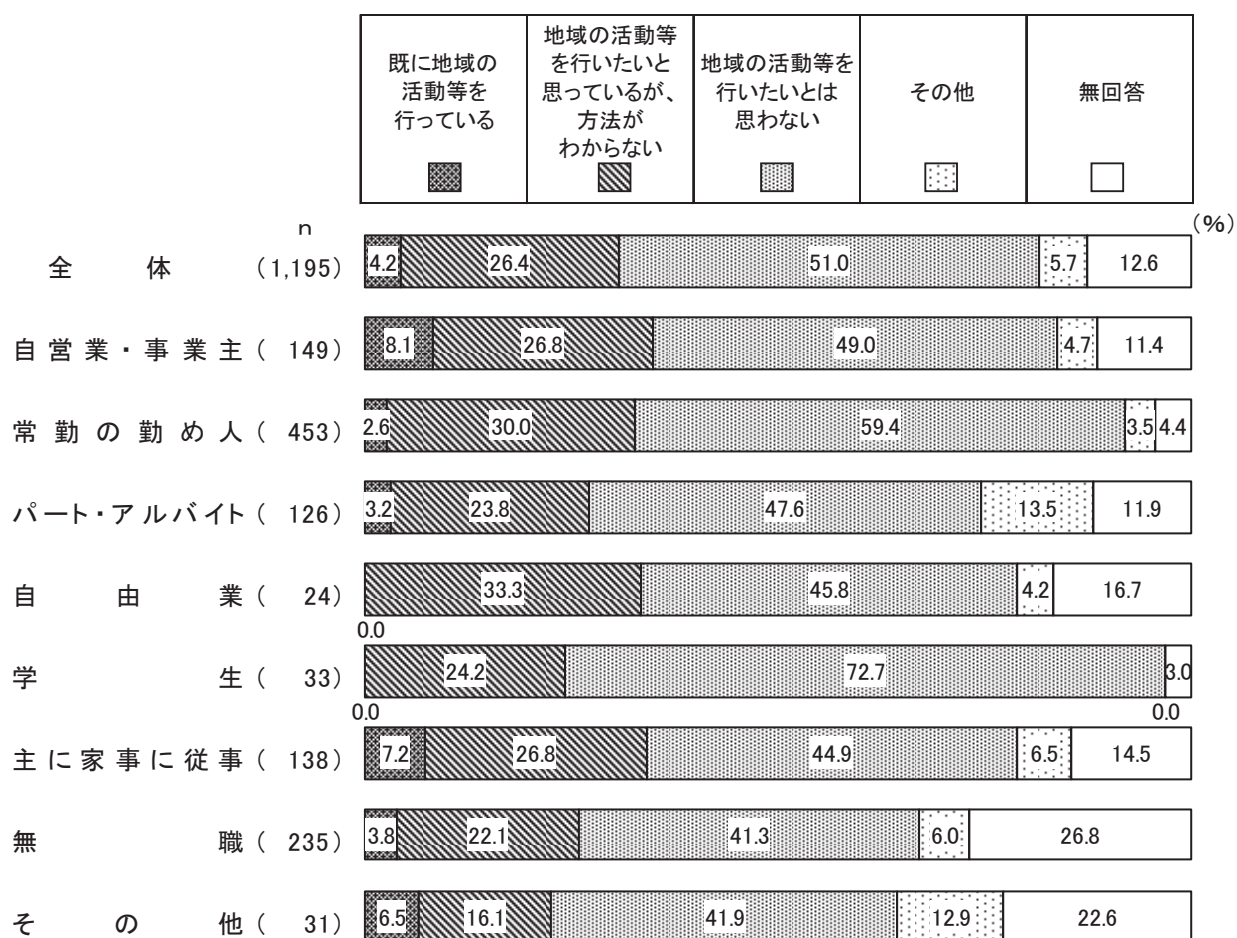




### (3) 職業別

- ・「既に地域の活動等を行っている」は自営業・事業主（8.1%）と主に家事に従事（7.2%）で高くなっている。
- ・「地域の活動等を行いたいと思っているが、方法がわからない」は自由業（33.3%）と常勤の勤め人（30.0%）で高くなっている。
- ・「地域の活動等を行いたいとは思わない」は学生（72.7%）と常勤の勤め人（59.4%）で高くなっている。

図 14-5-3 知識・経験の地域還元（職業別）





## 15. 図書館

### 15-1 図書館の利用状況

問44 あなたは、この1年間に、目黒区立の図書館を利用したことがありますか。（○は1つ）

- ・「利用したことがある」が4割半ば、「利用したことがない」が5割を超えている。
- ・「利用したことがある」は男性の30代、女性の40代で高くなっている。また、北部地区と東部地区で高くなっている。
- ・「利用したことがない」は男性の70代と80代以上、女性の10・20代と80代以上で高くなっている。また、中央地区と南部地区で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「利用したことがある」が44.9%、「利用したことがない」が53.0%となっている。
- ・図書館の利用状況の推移をみると、前回（平成26年）より「利用したことがある」が2.1ポイント減少し、「利用したことがない」が2.5ポイント増加している。

図15-1-1 図書館の利用状況（全体）

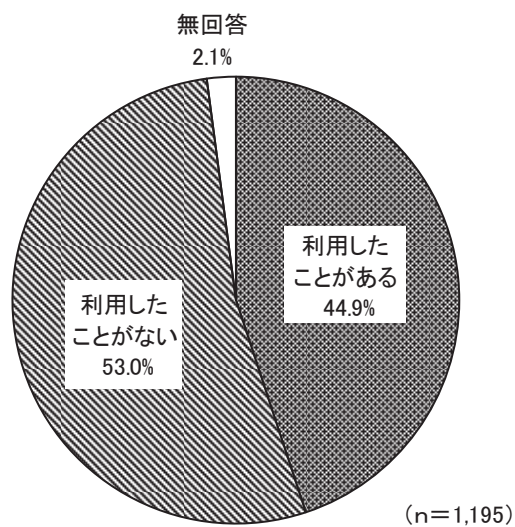
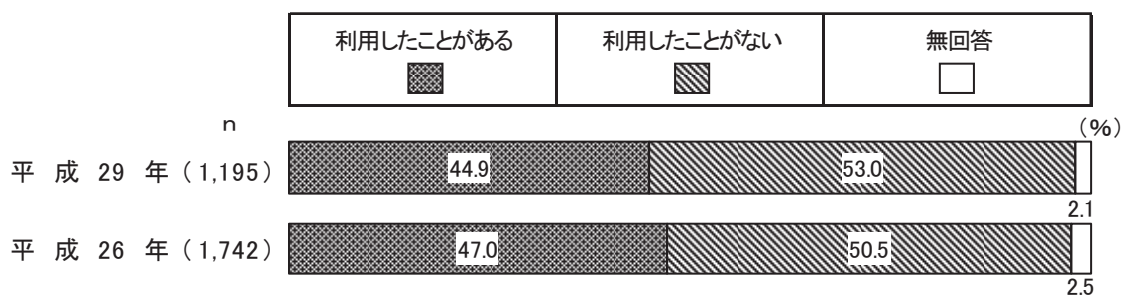


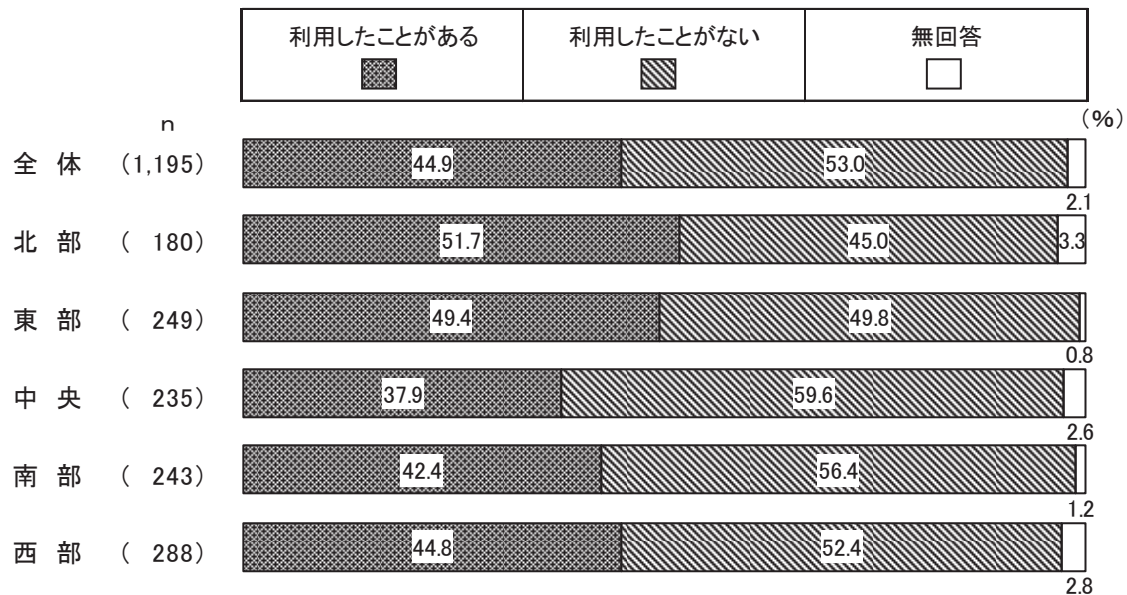
図15-1-2 図書館の利用状況の推移（全体）



(2) 地区別

- ・「利用したことがある」は北部地区（51.7%）と東部地区（49.4%）で高くなっている。
- ・「利用したことがない」は中央地区（59.6%）と南部地区（56.4%）で高くなっている。

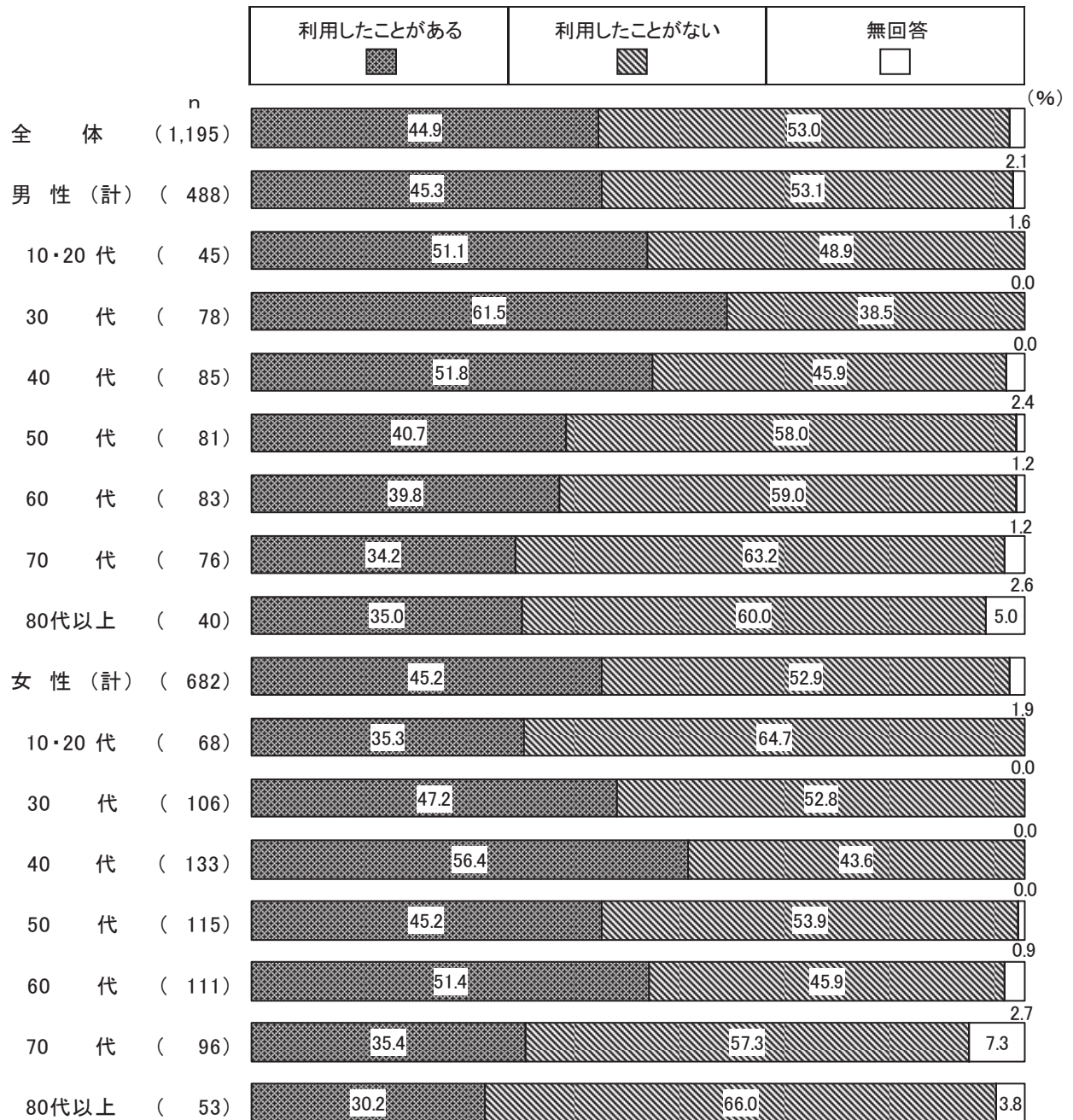
図 15-1-3 図書館の利用状況（地区別）



(3) 性・年代別

- ・「利用したことがある」は男性の30代(61.5%)、女性の40代(56.4%)で高くなっている。
- ・「利用したことがない」は男性の70代(63.2%)と80代以上(60.0%)、女性の80代以上(66.0%)と10・20代(64.7%)で高くなっている。

図 15-1-4 図書館の利用状況(性・年代別)



## 15-2 利用図書館

(問 44 で、目黒区立の図書館を「利用したことがある」と回答した方にお尋ねします)

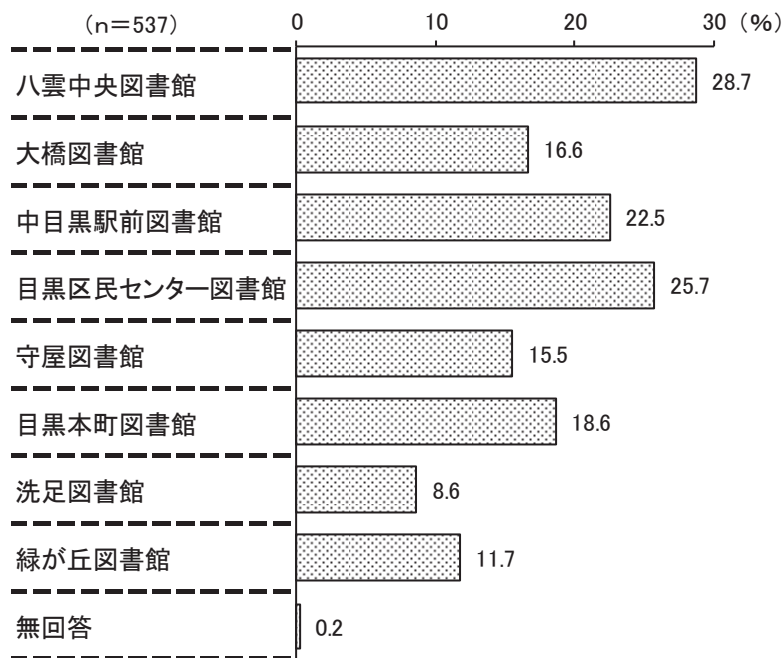
問44-1 利用した図書館はどこですか。(〇はいくつでも)

- ・「八雲中央図書館」が3割近くで最も高く、次いで「目黒区民センター図書館」が2割半ば、「中目黒駅前図書館」が2割を超えている。
- ・「八雲中央図書館」は男性の10・20代と50代、西部地区で高くなっている。
- ・「目黒区民センター図書館」は男性が女性を上回り、男性の30代と60代、女性の80代以上で高くなっている。また、東部地区で高くなっている。
- ・「中目黒駅前図書館」は女性が男性を上回り、女性の10・20代、北部地区で高くなっている。

### (1) 全体

- ・「八雲中央図書館」が28.7%で最も高く、次いで「目黒区民センター図書館」25.7%、「中目黒駅前図書館」22.5%、「目黒本町図書館」18.6%、「大橋図書館」16.6%の順となっている。

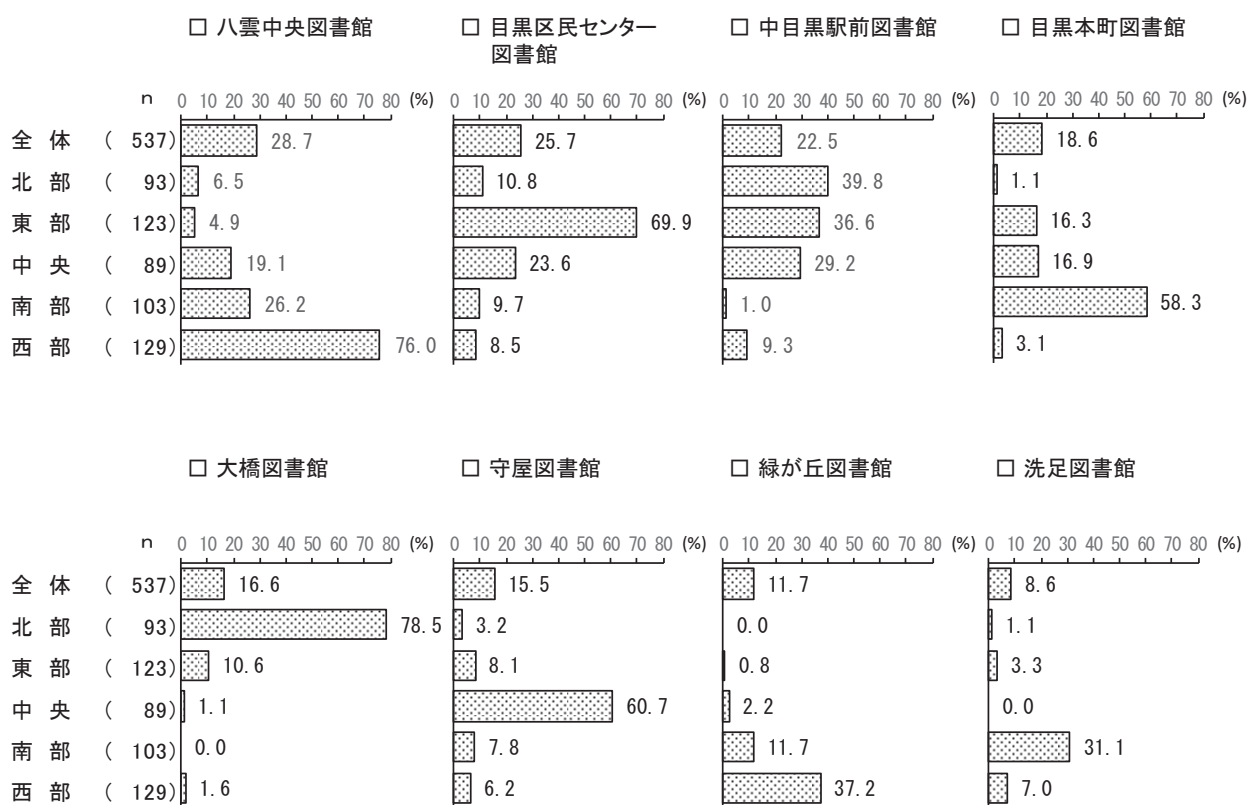
図 15-2-1 利用図書館 (全体)



## (2) 地区別

- ・北部地区では「大橋図書館」(78.5%)と「中目黒駅前図書館」(39.8%)が高くなっている。
- ・東部地区では「目黒区民センター図書館」(69.9%)と「中目黒駅前図書館」(36.6%)が高くなっている。
- ・中央地区では「守屋図書館」(60.7%)が高くなっている。
- ・南部地区では「目黒本町図書館」(58.3%)と「洗足図書館」(31.1%)が高くなっている。
- ・西部地区では「八雲中央図書館」(76.0%)と「緑が丘図書館」(37.2%)が高くなっている。

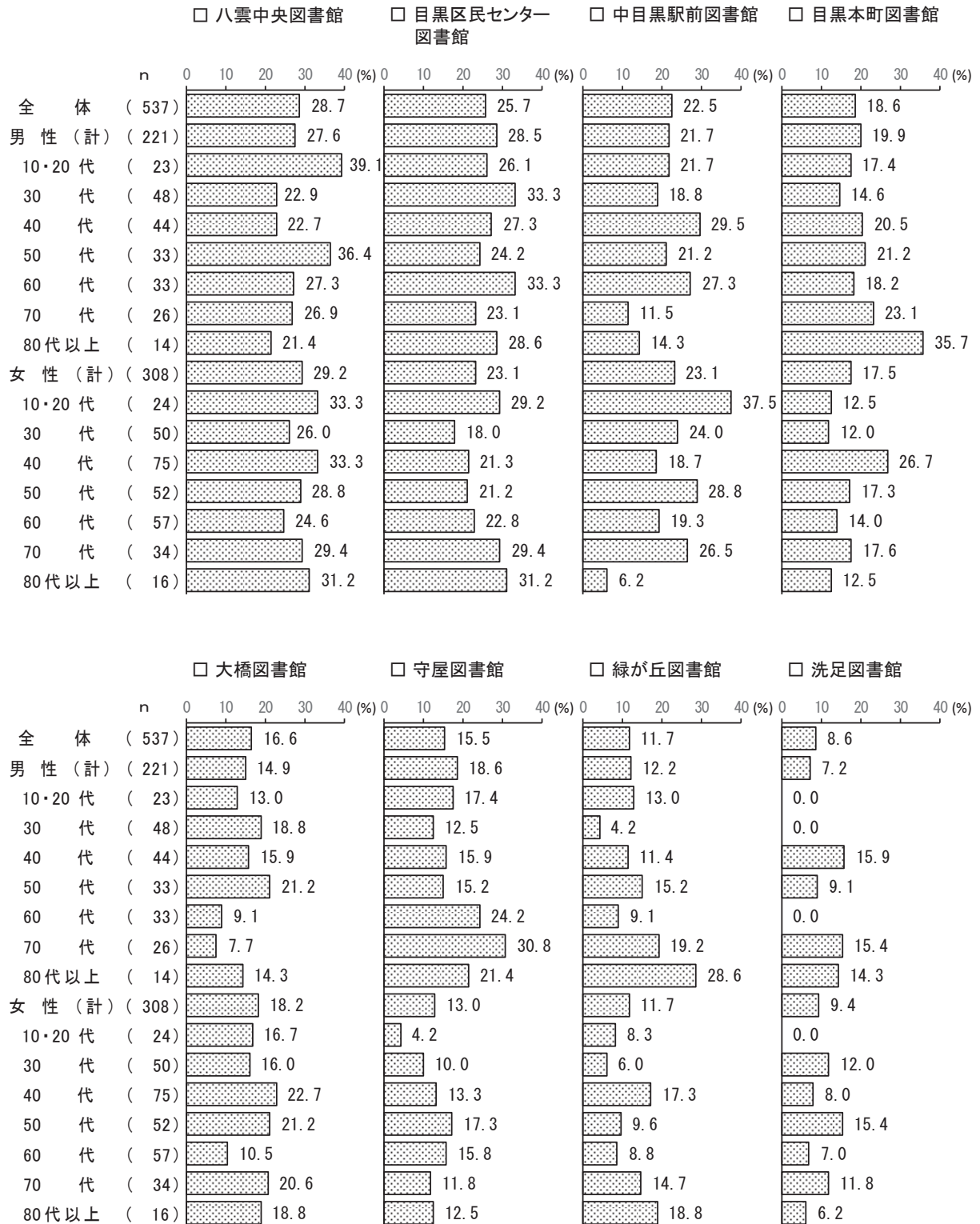
図 15-2-2 利用図書館（地区別）



(3) 性・年代別

- ・「大橋図書館」は女性（18.2%）が男性（14.9%）を3.3ポイント上回っている。一方、「守屋図書館」は男性（18.6%）が女性（13.0%）を5.6ポイント上回っている。
- ・「八雲中央図書館」は男性の10・20代（39.1%）と50代（36.4%）で高くなっている。
- ・「中目黒駅前図書館」は女性の10・20代（37.5%）で高くなっている。
- ・「目黒本町図書館」は男性の80代以上（35.7%）で高くなっている。

図 15-2-3 利用図書館（性・年代別）



### 15-3 図書館の利用頻度

(問 44 で、目黒区立の図書館を「利用したことがある」と回答した方にお尋ねします)

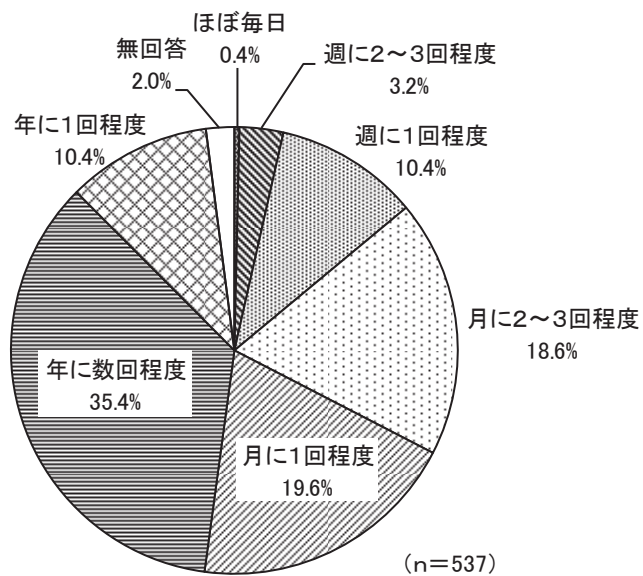
問44-2 この1年間にどれくらいの頻度で利用しましたか。(〇は1つ)

- ・「年に数回程度」が3割半ば、「月に1回程度」が2割、「月に2～3回程度」が2割近くとなっている。
- ・「年に数回程度」は男性の50代と60代、女性の10・20代と30代と60代で高くなっている。
- ・「月に1回程度」は男性・女性ともに70代で高くなっている。
- ・「月に2～3回程度」は男性の80代以上、女性の10・20代と70代で高くなっている。
- ・「週に1回程度」は男性の80代以上で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「年に数回程度」が35.4%、「月に1回程度」が19.6%、「月に2～3回程度」が18.6%となっている。

図 15-3-1 図書館の利用頻度 (全体)

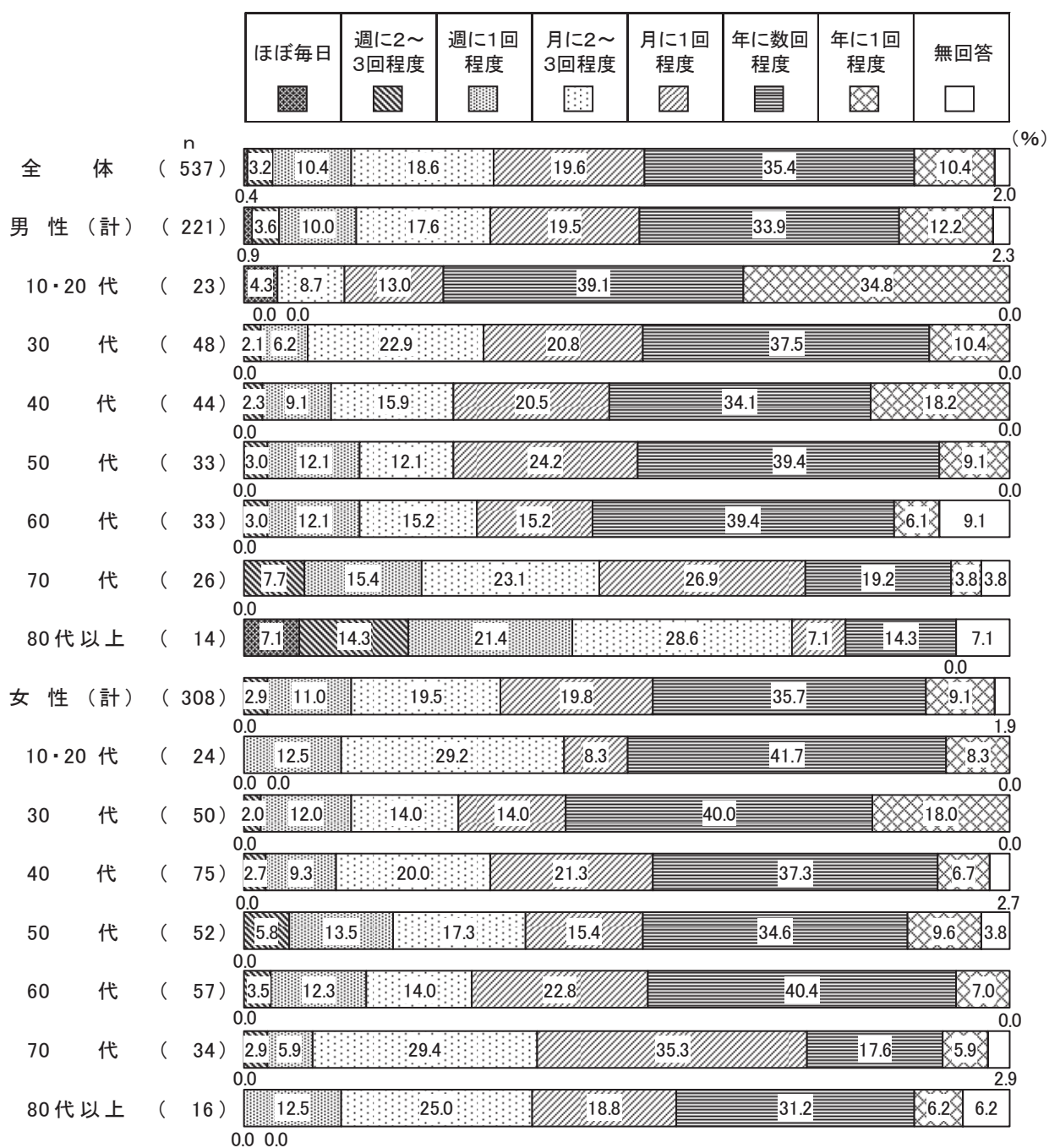




(2) 性・年代別

- ・「年に数回程度」は男性の50代と60代(ともに39.4%)、女性の10・20代(41.7%)と60代(40.4%)と30代(40.0%)で高くなっている。
- ・「月に1回程度」は男性・女性ともに70代(男性26.9%、女性35.3%)で高くなっている。
- ・「月に2～3回程度」は男性の80代以上(28.6%)、女性の70代(29.4%)と10・20代(29.2%)で高くなっている。
- ・「週に1回程度」は男性の80代以上(21.4%)で高くなっている。

図15-3-2 図書館の利用頻度(性・年代別)



## 15-4 今後に期待する図書館サービス

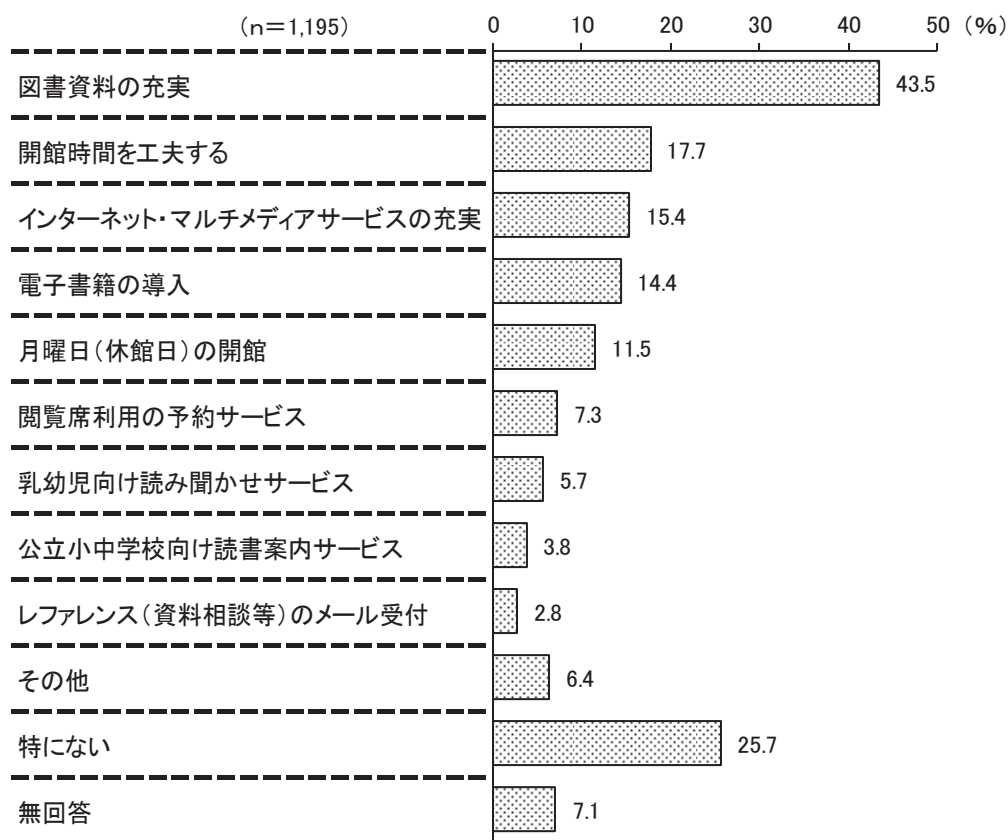
問45 今後の区立図書館に期待するサービスは何ですか。(〇はいくつでも)

- ・「図書資料の充実」が4割半ばで最も高く、次いで「開館時間を工夫する」が2割近く、「インターネット・マルチメディアサービスの充実」と「電子書籍の導入」がともに1割半ばとなっている。
- ・「図書資料の充実」は男性の30代、女性の40代と50代で高くなっている。
- ・「開館時間を工夫する」は男性が女性を上回っており、男性の30代と50代で高くなっている。
- ・「インターネット・マルチメディアサービスの充実」は男性が女性を上回っており、男性の30代で高くなっている。また、「電子書籍の導入」も男性が女性を上回っており、男性の10・20代で高くなっている。

### (1) 全体

- ・「図書資料の充実」が43.5%で最も高く、次いで「開館時間を工夫する」17.7%、「インターネット・マルチメディアサービスの充実」15.4%、「電子書籍の導入」14.4%の順となっている。

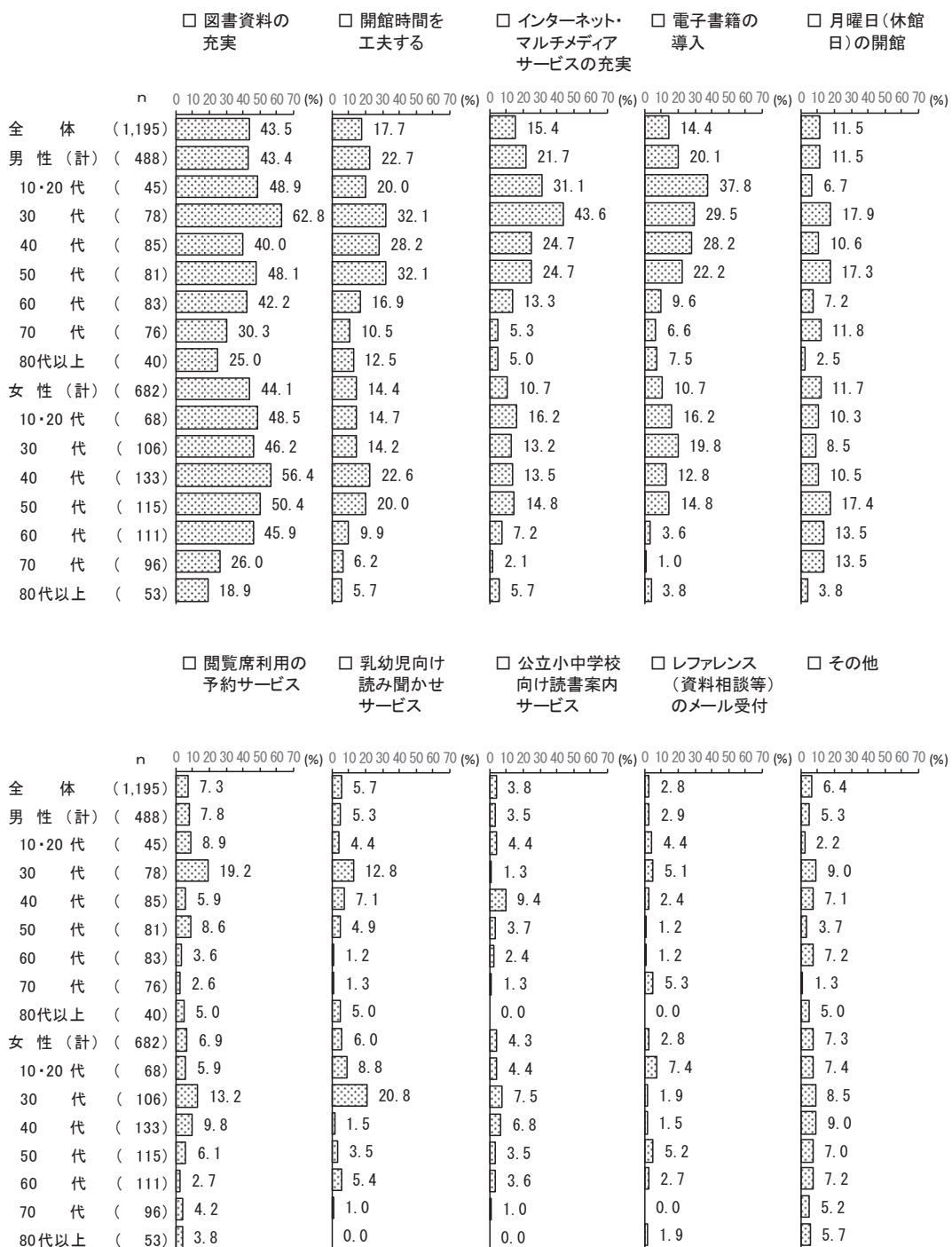
図 15-4-1 今後に期待する図書館サービス (全体)



(2) 性・年代別

- ・「図書資料の充実」は男性の30代(62.8%)、女性の40代(56.4%)と50代(50.4%)で高くなっている。
- ・「開館時間を工夫する」は男性(22.7%)が女性(14.4%)を8.3ポイント上回っており、男性の30代と50代(ともに32.1%)で高くなっている。
- ・「インターネット・マルチメディアサービスの充実」は男性(21.7%)が女性(10.7%)を11.0ポイント上回っており、男性の低い年代で割合が高く、30代(43.6%)で最も高くなっている。
- ・「電子書籍の導入」も男性(20.1%)が女性(10.7%)を9.4ポイント上回っており、男性、女性ともに低い年代で割合が高く、男性の10・20代(37.8%)で最も高くなっている。

図15-4-2 今後に期待する図書館サービス(性・年代別)



## 16. 窓口サービス

### 16-1 窓口サービスの印象

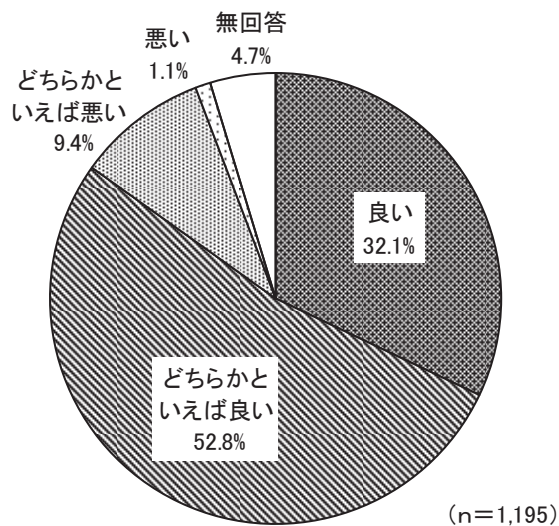
問46 区の窓口や職員の対応についてどのような印象をお持ちですか。（○は1つ）

- ・「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた『良い』は8割半ばとなっている。
- ・「良い」は男性、女性ともに80代以上で最も高くなっている。
- ・「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた『良い』は男性の10・20代で高くなっている。
- ・「どちらかといえば悪い」と「悪い」を合わせた『悪い』は男性の30代で高くなっている。

#### (1) 全体

- ・「良い」32.1%と「どちらかといえば良い」52.8%を合わせた『良い』は84.9%となっている。一方、「どちらかといえば悪い」9.4%と「悪い」1.1%を合わせた『悪い』は10.5%となっている。

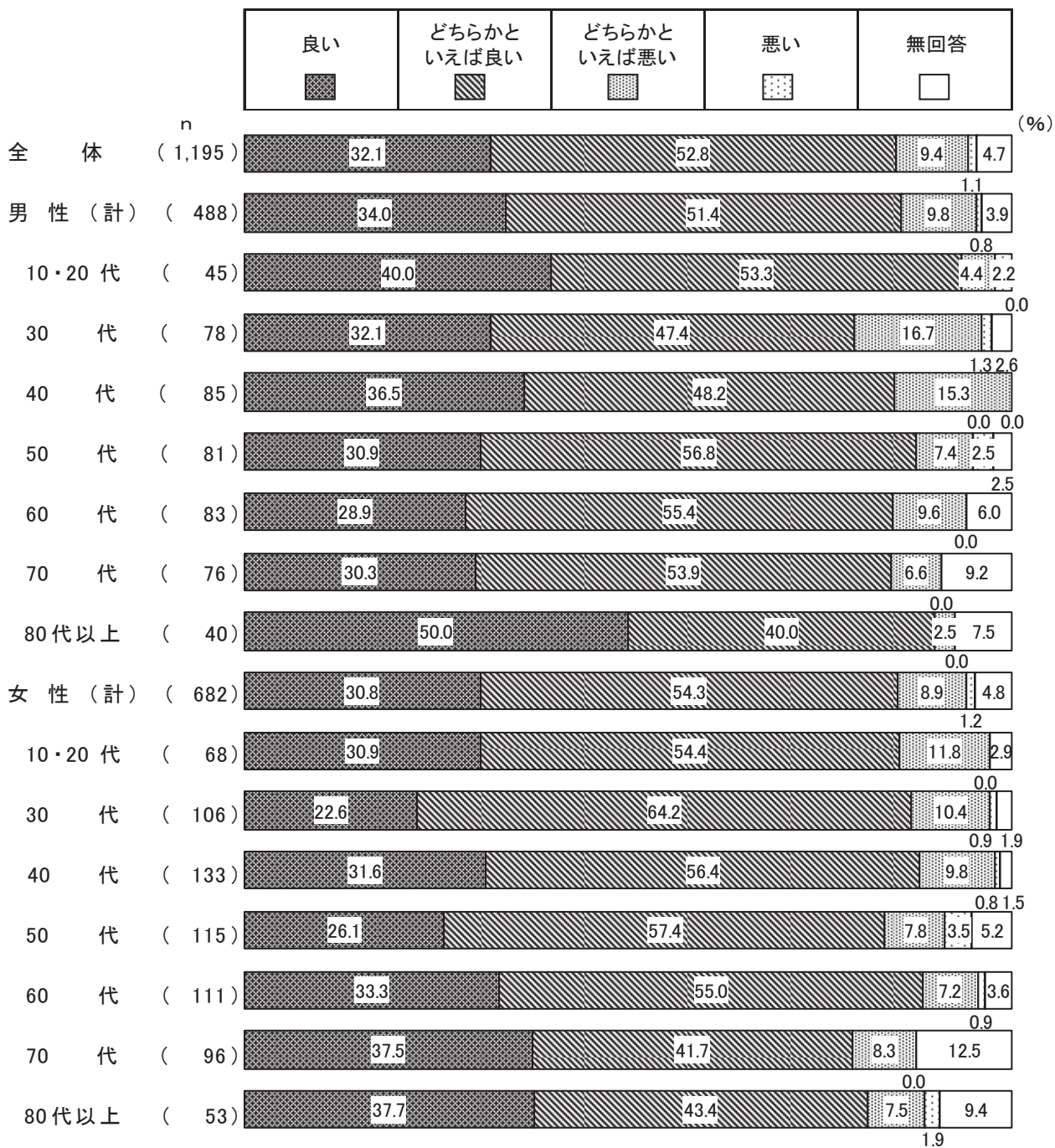
図 16-1-1 窓口サービスの印象（全体）



(2) 性・年代別

- ・「良い」は男性、女性ともに80代以上（男性50.0%、女性37.7%）で最も高くなっている。
- ・「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた『良い』は男性の10・20代（93.3%）で高くなっている。
- ・「どちらかといえば悪い」と「悪い」を合わせた『悪い』は男性の30代（18.0%）で高くなっている。

図 16-1-2 窓口サービスの印象（性・年代別）



## 16-2 印象が良かったところ

(問46で、区の窓口や職員の対応について「良い」「どちらかといえば良い」のいずれかに回答した方にお尋ねします)

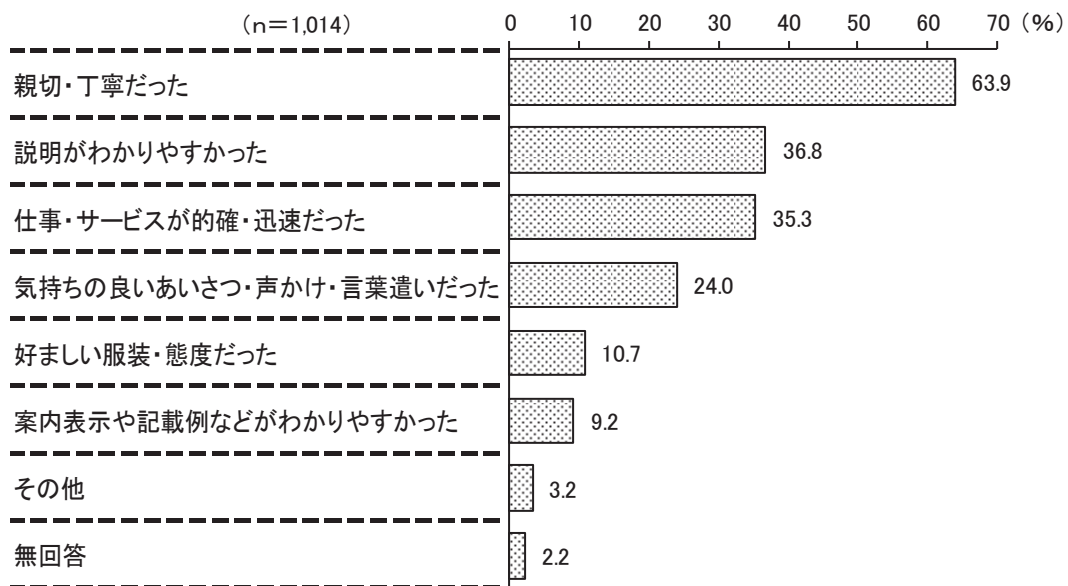
問46-1 印象が良かった点はどれですか。(〇はいくつでも)

- ・「親切・丁寧だった」が6割半ばで最も高く、次いで「説明がわかりやすかった」と「仕事・サービスが的確・迅速だった」がともに3割半ば、「気持ちの良いあいさつ・声かけ・言葉遣いだった」が2割半ばとなっている。
- ・「親切・丁寧だった」は男性が女性を上回っている。また、高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、男性、女性ともに80代以上で最も高くなっている。
- ・「説明がわかりやすかった」は男性、女性ともに70代で高くなっている。

### (1) 全体

- ・「親切・丁寧だった」が63.9%で最も高く、次いで「説明がわかりやすかった」36.8%、「仕事・サービスが的確・迅速だった」35.3%、「気持ちの良いあいさつ・声かけ・言葉遣いだった」24.0%の順となっている。

図16-2-1 印象が良かったところ(全体)

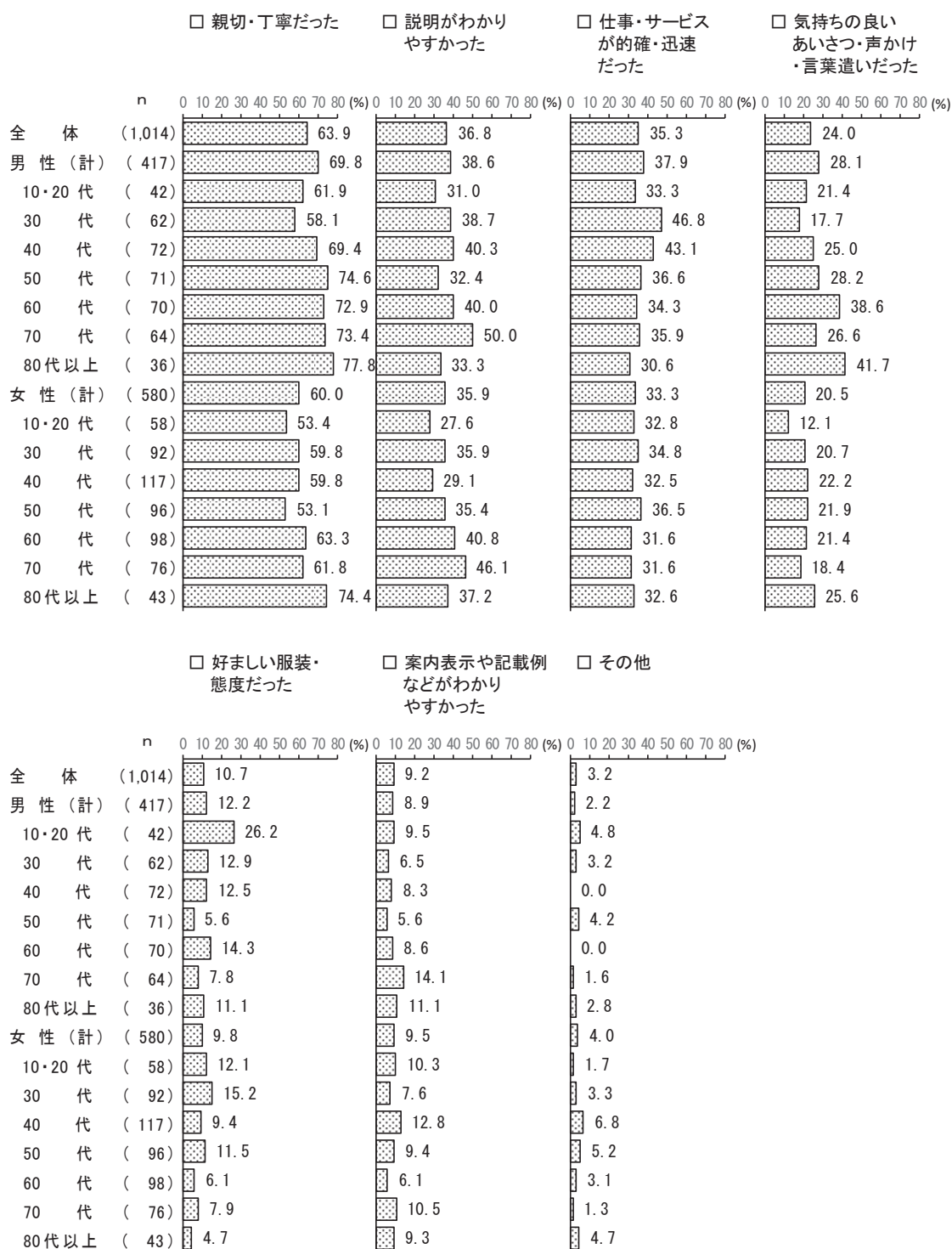




(2) 性・年代別

- ・「親切・丁寧だった」は男性（69.8%）が女性（60.0%）を9.8ポイント上回っており、「気持ちの良いあいさつ・声かけ・言葉遣いだった」も男性（28.1%）が女性（20.5%）を7.6ポイント上回っている。
- ・「親切・丁寧だった」は高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、男性、女性ともに80代以上（男性77.8%、女性74.4%）で最も高くなっている。
- ・「説明がわかりやすかった」は男性、女性ともに70代（男性50.0%、女性46.1%）で高くなっている。

図 16-2-2 印象が良かったところ（性・年代別）



### 16-3 印象が悪かったところ

(問 46 で、区の窓口や職員の対応について「どちらかといえば悪い」「悪い」のいずれかに回答した方にお尋ねします)

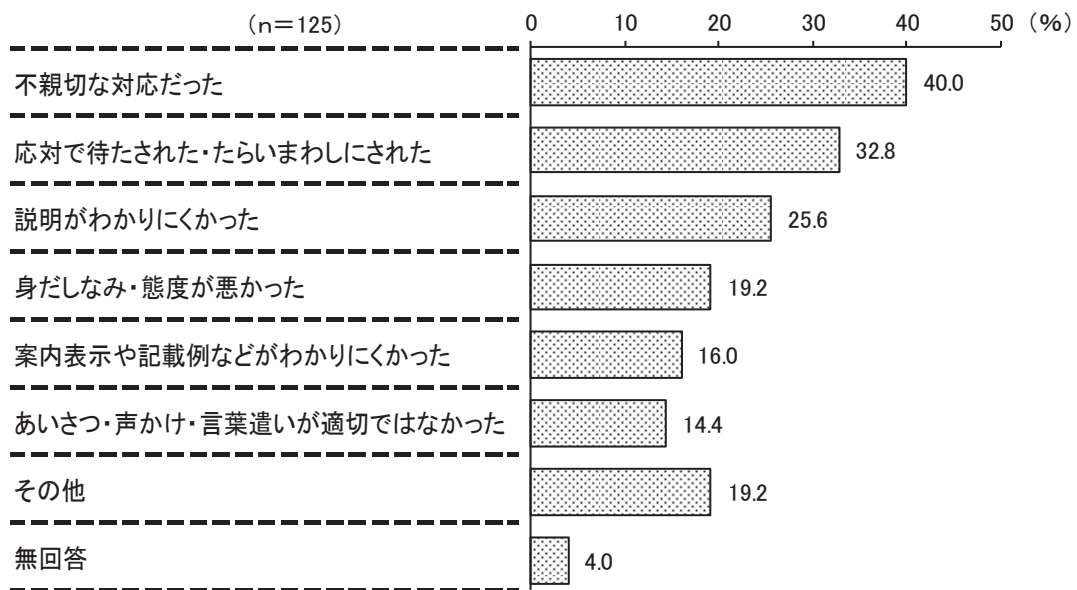
問46-2 印象が悪かった点はどれですか。(〇はいくつでも)

- ・「不親切な対応だった」が4割で最も高く、次いで「対応で待たされた・たらいまわしにされた」が3割を超え、「説明がわかりにくかった」が2割半ば、「身だしなみ・態度が悪かった」がほぼ2割となっている。
- ・「説明がわかりにくかった」は男性が女性を上回っている。一方、「身だしなみ・態度が悪かった」は女性が男性を上回っている。

#### (1) 全体

- ・「不親切な対応だった」が40.0%で最も高く、次いで「対応で待たされた・たらいまわしにされた」32.8%、「説明がわかりにくかった」25.6%、「身だしなみ・態度が悪かった」19.2%の順となっている。

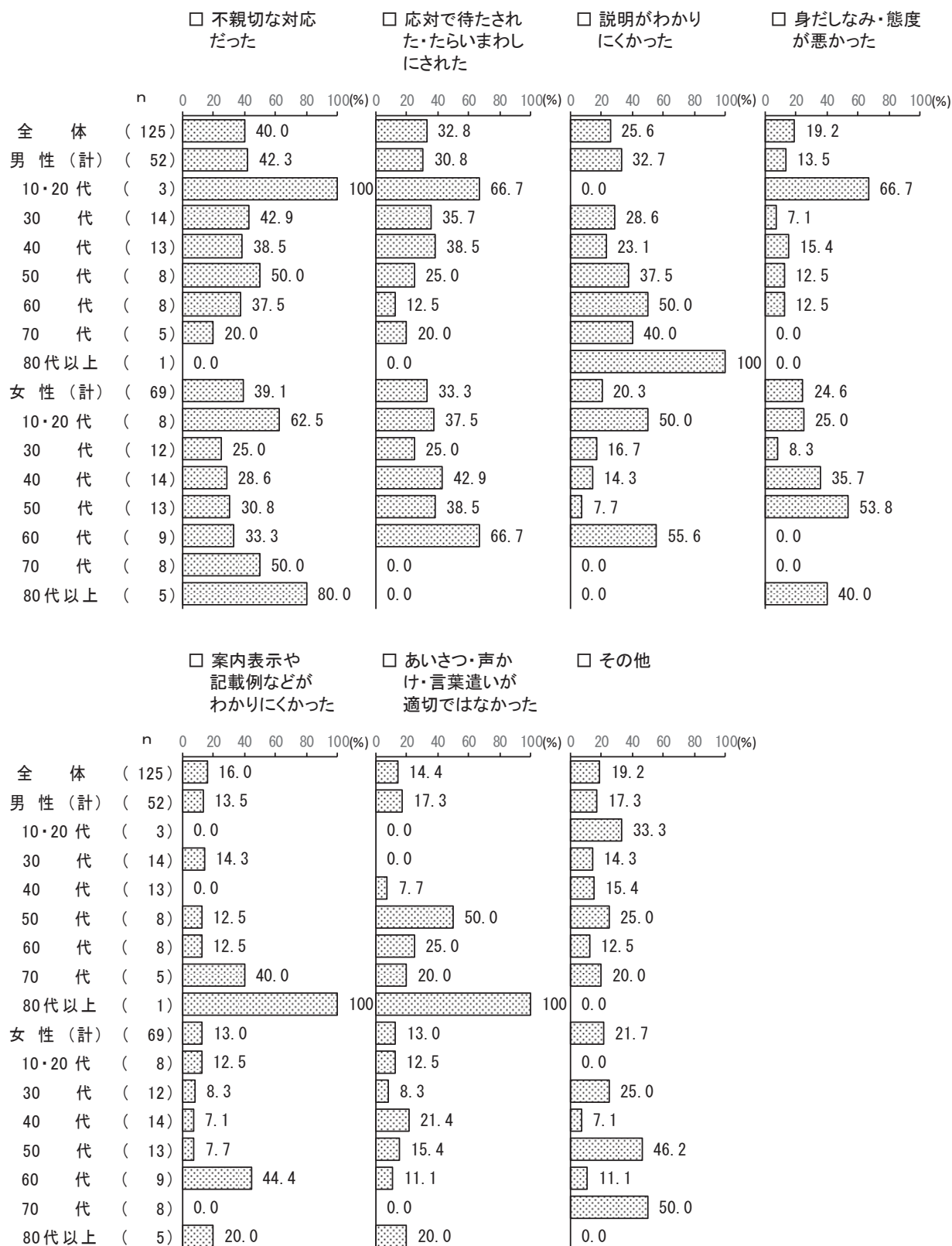
図 16-3-1 印象が悪かったところ (全体)



(2) 性・年代別

・「説明がわかりにくかった」は男性 (32.7%) が女性 (20.3%) を 12.4 ポイント上回っている。  
 一方、「身だしなみ・態度が悪かった」は女性 (24.6%) が男性 (13.5%) を 11.1 ポイント上回っている。

図 16-3-2 印象が悪かったところ (性・年代別)



## 16-4 今後気をつけるべきところ

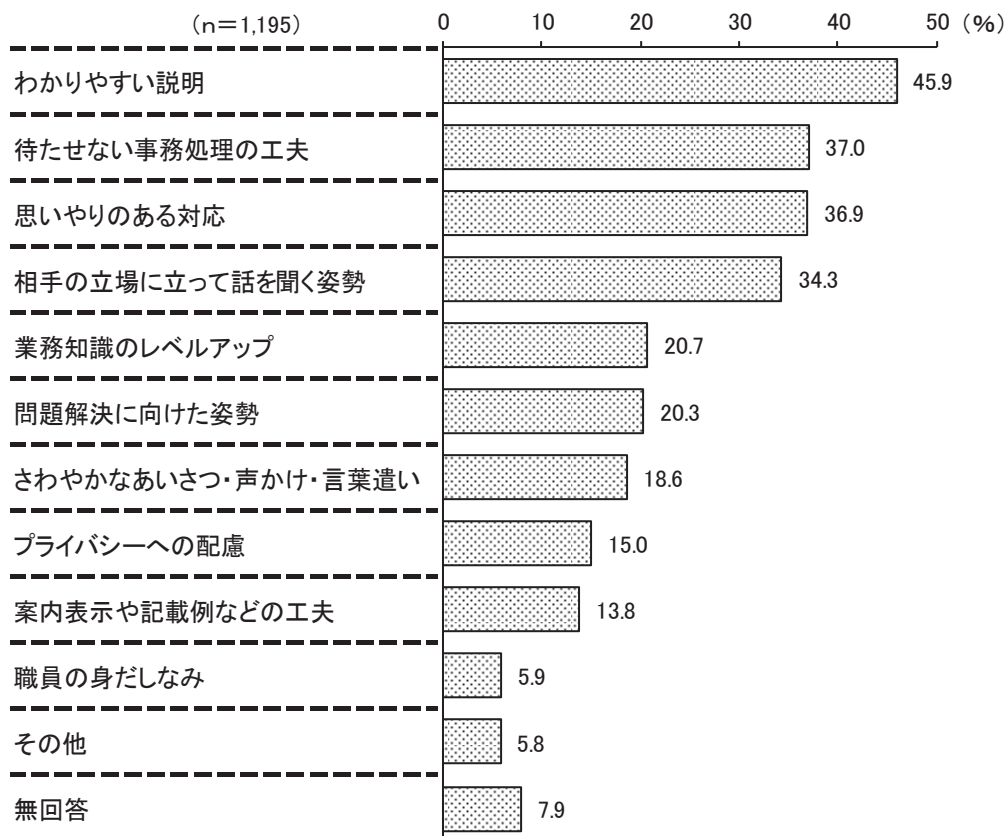
問47 区の窓口や職員の対応について、今後、区はどのような点に注意すべきだと思いますか。  
(〇はいくつでも)

- ・「わかりやすい説明」が4割半ばで最も高く、次いで「待たせない事務処理の工夫」、「思いやりのある対応」、「相手の立場に立って話を聞く姿勢」の順となっている。
- ・「わかりやすい説明」は男性の80代以上、女性の70代で高くなっている。
- ・「待たせない事務処理の工夫」は男性の30代、女性の10・20代で高くなっている。
- ・「思いやりのある対応」は女性が男性を上回っており、男性、女性ともに50代で高くなっている。

### (1) 全体

- ・「わかりやすい説明」が45.9%で最も高く、次いで「待たせない事務処理の工夫」37.0%、「思いやりのある対応」36.9%、「相手の立場に立って話を聞く姿勢」34.3%の順となっている。

図 16-4-1 今後気をつけるべきところ (全体)



(2) 性・年代別

- ・「さわやかなあいさつ・声かけ・言葉遣い」は男性（21.1%）が女性（16.6%）を4.5ポイント上回っている。一方、「プライバシーへの配慮」は女性（18.2%）が男性（10.7%）を7.5ポイント上回っている。
- ・「わかりやすい説明」は男性の80代以上（55.0%）、女性の70代（49.0%）で高くなっている。
- ・「待たせない事務処理の工夫」は男性の30代（46.2%）、女性の10・20代（44.1%）で高くなっている。
- ・「思いやりのある対応」は男性、女性ともに50代（男性45.7%、女性43.5%）で高くなっている。

図 16-4-2 今後気をつけるべきところ【上位 10 項目】（性・年代別）

